

50th
CEMA Anniversary

CEMA 未来ビジョン

「ネクストコーティング2050」 — 技と知が結ぶ、塗装の枠を超えた未来へ —

1. 塗装の力で、価値を創造する

塗装は保護・美観・長寿命化を支える基盤技術。
その価値を世界に広げ、新しい豊かさを創り出します。

2. 環境と調和し、知恵で進化する

知恵と経験を最新技術と融合させ、時代の変化に応える、
環境と調和したものづくりを進めます。

3. 信頼と共創で、塗装産業の未来を育む

会員相互の協力と学び合いを基盤に、人・技術・社会が調和する
塗装産業の未来をともに築きます。

～ 卷 頭 言 ～



会長 服部 修一

本日、日本塗装機械工業会（CEMA）は、創立50周年という誠に意義深い節目を迎えることができました。これもひとえに、長年にわたり CEMA の活動を支えてこられた歴代会長並びに諸先輩方、会員各位、関係団体の皆様、そしてメディアの皆様のご支援とご尽力の賜物であり、ここに謹んで御礼申し上げます。

CEMA は1976年の設立以来、主に工業塗装分野における塗装機械・設備の高度化と業界の健全な発展を使命として、会員各社の連携強化、技術情報の共有、人材育成、標準化への対応など、多岐にわたる活動を継続してまいりました。工業塗装は、自動車、建設機械、産業機器、社会インフラなど、幅広い分野のものづくりを支え、製品の品質、耐久性、安全性、さらには意匠性の向上を通じて、産業と社会の発展に重要な役割を果たしてまいりました。

この50年の歩みを振り返りますと、高度経済成長期からバブル経済の崩壊、リーマンショック、新型コロナウイルス感染症の拡大に至るまで、我が国経済は幾多の困難と変化に直面してまいりました。その都度、工業塗装に求められる役割も高度化・多様化してきましたが、諸先輩方は常に技術力を礎とし、時代の要請に真摯に応えることで、業界の発展と CEMA の確かな基盤を築いてこられました。

さらに近年の産業を取り巻く環境は、デジタル技術の急速な進展、少子高齢化に伴う人手不足、地政学リスクの高まりや経済安全保障の観点からのサプライチェーンの再構築など、これまでにない大きな転換期を迎えております。工業塗装の分野においても、品質の安定化や生産性向上に向けた DX の推進、技能の継承や省人化への対応、供給体制の強化が重要な課題となっています。また脱炭素社会の実現に向けた世界的な潮流は、工業塗装分野にも大きな変革をもたらしています。省エネルギー化や VOC 低減、環境負荷低減に貢献する塗装機器・システムの開発は、社会的責任であると同時に、新たな技術革新と付加価値創出の機会でもあります。CEMA が果たすべき役割は一層重要性を増しており、社会から寄せられる期待もますます高まっております。

CEMA は今後も、工業塗装を支える塗装機械産業の中核的団体として、技術力と人材力を軸に、DX と脱炭素への対応を両輪とした持続可能な産業の発展に貢献してまいります。次世代を担う人材の育成、産学官、関連団体との連携の強化を通じて、新たな価値創造と社会課題の解決に寄与し、信頼される工業会としての使命を果たしていく所存です。

目次

巻頭言	1
◆祝辞	3
◆創立と発展の歩み	13
直近10年の組織体制の変化	16
CEMA 会員リスト	18
◆正会員24社の技術の歩み	19
◆工業会の活動と成果	33
技術委員会	34
シンポジウム委員会	38
広報委員会	43
新春座談会	45
◆CEMA50年の歩み	49
出荷統計	62

The image is a composite of two photographs of a church interior. The top photograph shows a high-angle view of a spiral staircase and several stained glass windows with abstract, geometric designs in shades of yellow, brown, and white. The bottom photograph shows a lower angle of the same staircase and windows. A solid yellow horizontal banner is positioned across the middle of the image, containing the text '祝 辞' in white.

祝 辞

お祝いの言葉

一般社団法人 日本塗料工業会
会長 毛利 訓士



日本塗装機械工業会（CEMA）が創立50周年を迎えられたことに対し、心からお慶び申し上げますとともに、記念誌の発刊をお祝い申し上げます。

CEMAは1976年8月、国内の塗装機器メーカー19社によって、塗装機械の普及と向上及び塗装業界の健全な発展に寄与することを目的に創立され、時代の要求に対応し、会員各位と連携のもと、工業会としての役割を果たされてこられましたことに対し、深く敬意を表するものであります。

特に、VOC排出抑制を始めとする環境負荷低減に対する取り組み、塗装産業全体の技術発展のためのシンポジウムの開催、更に、労働災害減少に向けた情報の発信等業界の継続的な発展への貢献は誰もが認めるところです。

貴工業会が、これまでの経験を礎として、益々多様化していく時代の要請に迅速に対応され、次の10年に向けて、会員各位と共に、更なる技術の向上・飛躍を目指し、塗料関連産業の発展、ひいては我が国産業の発展のために引き続きご尽力されることを期待して、お祝いの言葉とさせていただきます。

お祝いの言葉

日本工業塗装協同組合連合会
会長 高橋 正



この度は日本塗装機械工業会（CEMA）の創立50周年、誠にありがとうございます。

貴工業会と私ども日本工塗連は、塗装機器関連の最新機器や既存機器設備のメンテナンス、更には塗装に関する情報提供など、日々の業務活動の中で、なくてはならない存在として、密接な関係を築いて参りました。特に目まぐるしく変化する地球環境の中で、塗装の効率化や環境対応など、様々な局面でご支援、ご協力をいただきました。あらためて貴工業会に対して深く感謝申し上げます。

この10年を振り返りますと、貴工業会と工業塗装の高度化、環境対応を目的として設立した「工業塗装高度化協議会」が、新たに日本塗料工業会、日本パウダー協議会を加え、「国際工業塗装高度化推進会議（IPCO）」に改称し、その具体的な活動の中で、貴工業会がリーダーシップをもって、「サステナブル社会に向けた塗料・塗装業界の先進的な取組み」を理念とした「コーティングコンソーシアム（CoCo）」を立ち上げ、炭酸ガス排出抑制アンケート、チェックリストやガイダンスブックを作成し、環境対応に取り組んで参りましたことに深く敬意を表します。

今後も永年の経験を生かし、さらなる技術革新と独創的な機器開発を通じて、塗装業界の発展に寄与していただけるものと信じております。私どもも微力ながらご支援申し上げる所存です。貴工業会創立50周年を心よりお祝い申し上げます。

創立50周年を祝して

一般社団法人 国際工業塗装高度化推進会議
理事長 高橋 大



日本塗装機械工業会様の創立50周年、誠におめでとうございます。1976年の設立以来、塗装機械技術の高度化と業界の健全な発展を牽引されてこられた半世紀の歩みに、心より敬意を表します。

貴工業会の継続的な技術革新と標準化への取り組みは、塗装品質の向上のみならず、生産性改善や環境対応の推進においても大きな成果を挙げてこられ、日本のものづくりを力強く支えてられました。

私ども一般社団法人 国際工業塗装高度化推進会議（IPCOC）は、魅力ある工業塗装業界を創ることを使命とし、環境問題と労働人口問題の解決をベースとした現場の高度化と持続可能な産業基盤づくりに取り組んでおります。

次の50年に向け、デジタル化と脱炭素という大きな潮流の中、貴団体と協力しながら、日本の塗装産業全体の価値向上に貢献してまいりたいと存じます。ここに、日本塗装機械工業会様の輝かしい歩みがさらに未来へとつながり、業界の発展と社会的価値の創出に一層寄与されることを祈念し、創立50周年のお祝いとさせていただきます。

創立50周年を祝して

一般社団法人 日本塗装技術協会
会長 工藤 一秋



この度、日本塗装機械工業会が創立50周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。この半世紀、貴会は塗装機械の高度化を通じて日本の産業発展を根底から支えてられました。最近では特に、VOC 排出削減、さらにはカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みといった、環境保全にも多大な貢献をされています。常に時代の要請に先んじて、革新的な情報発信をされてきたことに、改めて敬意を表します。

ところで、私ども日本塗装技術協会は、広く塗料・塗装に関わる方々に、技術の情報交換を行う場を提供することを活動の中心としております。スポーツや音楽で言えば興行主にあたります。会員の方には、試合を眺め、あるいはステージを見てもらうことで何かを得ていただく、というわけです。これに対して貴会は、会員それぞれが情報の作り手であり発信元である、つまり“プレイヤー”である点が、大きな特徴とお見受けします。しかも、議論を尽くしてチームプレーで最善を追求していくスタイルをお持ちで、それゆえに業界でひととき大きなプレゼンスを放っておられます。エネルギーに時代を先取りする貴会の姿勢を、今後とも貫いていただくことを祈念致します。また、立ち位置こそ異なれ、ともに塗装の発展を目指す当協会への一層のご指導ご支援をお願いし、お祝いの言葉とさせていただきます。

創立50周年 お祝いの言葉

日本パウダーコーティング協同組合
理事長 長谷川 智久



日本塗装機械工業会が創立50周年という輝かしい節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴工業会は塗装機械分野において、半世紀にわたり技術革新と品質向上を力強く牽引され、我が国ものづくり産業の発展に多大なるご貢献を果たしてこられました。その歩みとご尽力に対し、深く敬意を表します。

今日、産業界はカーボンニュートラルの実現という大きな社会的使命に直面しております。塗装分野においても、省エネルギー化や高効率化、VOC削減への対応に加え、粉体塗装の普及・高度化など、環境負荷低減に向けた技術革新がますます重要となっております。これらの取り組みは、持続可能な社会の構築に不可欠なものであり、貴工業会の果たされる役割は一層大きなものとなっております。

また、深刻化する人材不足への対応も業界共通の課題であります。省人力化や人材基盤の強化は今後の持続的成長の鍵となります。貴工業会が中心となり、業界全体で知恵を結集されることを大いに期待しております。

50年の歴史の中で培われた技術力と連携の力を礎に、今後もカーボンニュートラル社会の実現と業界の発展に向けて、さらなるご飛躍を遂げられますことを心より祈念申し上げます。

ここに創立50周年を謹んでお祝い申し上げますとともに、貴工業会ならびに会員各社のますますのご発展とご繁栄をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

創立50周年を祝して

アルミニウム合金材料工場塗装工業会
会長 宮越 一郎



この度は創立50周年誠にありがとうございます。

1976年発足以来の多年の運営と功績に敬意を表すると共に、心よりお喜びを申し上げます。

我々「アルミニウム合金材料工場塗装工業会（ABA）」については、2014年に発足し本年ようやく12年目を迎えました。活動内容としては、建築用アルミニウム合金の「加熱硬化形溶剤系塗装標準仕様書・同解説」や同「粉体塗装仕様書標準指針・同解説」を携え、様々な機会を通じて全国各地の建築工事業者及び関係業者に正しい塗装仕様・材料の普及・展開を図ると共に各従業員の育成を図っています。

我々塗装工場は、塗装機器や塗料の技術発展によって成り立っており、貴工業会とは常に連動した関係です。また VOC 排出抑制や塗着効率の向上という課題は、我々にとっても同様の大きな課題であり、貴工業会と目指す夢は同じです。これからも世界の様々な変化に対応しつつ「地球環境の保全」をはじめ色々な課題に共に取り組んで行きたいと考えています。

貴工業会の今後のご繁栄と会員企業並びにスタッフ皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

お祝いの言葉

一般社団法人 日本塗装工業会
会長 加藤 憲利



日本塗装機械工業会が設立50周年を迎えられ、「CEMA50周年記念誌」が発刊されますことを心よりお慶び申し上げます。

貴会は設立以来、一貫して塗装機械・設備の技術向上に取り組まれ、会員数の拡大とともに今日の地位を築かれたことにあらためて敬意を表します。

また、貴会が取り組まれてこられた技術革新や環境保全是、施工者としても深く恩恵を受けており、心より感謝を申し上げます。

さて、我々は塗装工事業者唯一全国47都道府県に支部を持つ団体として大型ビルから住宅、橋梁をはじめとする公共施設等の塗装・改修工事を通じ、安心安全な生活の基礎となる社会インフラ整備の一翼を担っているものと自負しております。基本方針に「希望あふれる塗装工事業」を謳い、国籍やジェンダーにとらわれない、新たな担い手の就労環境の整備や支援にも積極的に取り組んでおります。思いに触れるかのように会員数も4年連続で増加し、2,300社を超えました。

今後とも、社会全体の美観維持や性能保全、施工時の環境負荷低減など、貴会の卓越した研究開発力にご期待申し上げるとともに、この50周年を節目に従前以上の良きパートナーとしてご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

結びに、次の50年も貴会が益々飛躍されますことをご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

創立50周年を祝して

一般社団法人 色材協会
会長 大原 伸一



日本塗装機械工業会（CEMA）が創立50周年を迎えられたことに対し、心からお喜び申し上げますとともに、記念誌の発刊をお祝い申し上げます。CEMAは1976年8月、国内の塗装機器メーカー19社によって塗装機械の普及と向上および塗装業界の健全な発展を目的に創立され、ここにめでたく創立50周年を迎えられました。設立以来、塗装技術の活性化に邁進されるとともに、VOC排出抑制への取り組み、塗装技術の核となる技術情報を集約化してそれらをグローバルに展開するなど、多くの活動にご尽力されておりますことに、深く敬意を表する次第であります。直近では、コロナ感染による世界的経済活動の停滞、ウクライナ戦争等の原料価格の高騰、国際政治の混乱、地球温暖化対応と待ったなしの厳しい変化が続いております。このような中、CEMAは産業界からの信用と信頼を獲得し、その業績は広く認められています。CEMAの皆様におかれましては、引き続き、活力と創意にあふれる事業に積極的にチャレンジしていただき、魅力ある塗装業界づくりにご尽力賜りますようお願い申し上げます。我々の色材協会も“彩”、“機能”を、色材を通して塗料の発展のために共に貢献して参ります。終わりに、CEMAの今後益々のご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げまして、お祝いの詞といたします。

創立50周年を祝して

日本塗料商業組合
理事長 中山 保幸



この度は、日本塗装機械工業会（CEMA）が創立50周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

貴工業会は、昭和51年8月に設立され、塗装機械・塗装設備業界の経済的・社会的地位向上に尽力され、今日の業界における強固な基盤を築かれました。これまでの目覚ましい発展に対し、深く敬意を表します。

半世紀に亘る歩みの中では、日本国内はもとより世界規模で幾多の困難な局面があったかと存じますが、常に最先端の技術と知識を駆使し VOC 対策をはじめとする環境問題にも積極的に取り組まれ、塗料と被塗物を密着させる役割から常に時代のニーズを先取りし、グローバルな展開まで、日本の塗装技術を世界最高レベルへと押し上げられた功績は誠に多大であります。

塗料販売業者の団体である当組合も、魅力ある塗装業界並びに色彩産業の一つであります塗料の発展の為に互いに尊重・協力し共存共栄の理念のもと微力ではありますがご協力させていただければ幸甚に存じます。

貴工業会の益々のご発展と次なる100周年に向けてより一層飛躍されますように祈念申し上げましてお祝いの詞とさせていただきます。



塗装業界を見つめて 企画と結束での活動推進

株式会社 塗料報知新聞社
代表取締役社長 有馬 弘純



このたび設立50周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。これまでの塗装機器・設備の普及と向上、また工業塗装業界の健全な発展への取組みに深く敬意を表したいと思います。

この10年が経過するなか、貴「技術シンポジウム」はコロナ禍を経てWEB開催へと切り替えましたが、4半世紀を超える継続は、塗料・塗装業界の学びの場としてしかと定着しています。加えて、若手等に対する「勉強会」の開催も企画していると聞いており、同様に、業界の学びの場として根付くことを願っています。

また、当時の工業塗装高度化推進協議会から国際工業塗装高度化推進会議（IPCO）への参画、さらに特筆すべきは、掲げる〈21世紀ビジョン〉のもと、関係団体と協働にてVOC削減やCO₂削減に資する塗装機械・塗装設備を目指すとの観点から、日塗工・日本工塗連・IPCOと構成する「コーティング・コンソーシアム（CoCo）」への参画が挙げられます。貴委員会の積極的な関りにて完成した『CO₂削減のためのガイドンスブック』は『同チェックリスト』と並んで、塗料・塗装業界における取組みの促進を図る上で大きな役割を果たしています。

次の10年への、企画力と結束力のある貴活動を、業界メディアとして広く発信させていただきます。

塗装業界を見つめて

株式会社 コーティングメディア
代表取締役 近藤 亮吉



日本塗装機械工業会創立50周年、誠におめでとうございます。50周年という大きな節目を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

この半世紀に及ぶ歩みは決して平坦な道のりばかりでなかったと拝察します。大量生産・大量消費を支えた高度経済成長時代を終え、グローバル時代の到来、また現在は環境・安全性の向上へとのづくりを取り巻く環境は劇的な変化を遂げてきました。

またそうした時代の変化に対し、貴会も塗装機械という役割から塗料の持つ「美観」「機能」「保護」を支え、かつ生産性向上、品質向上、安全性の向上と社会に貢献されてきました。

これからものづくりは、ロボットやAIの活用をはじめ、いまだ経験したことのない未踏の領域に入ろうとしています。塗装においても一層高い技術開発が求められます。

塗装が社会にとって必要とされる産業であり続けるために。業界内の結束を深め、技術の向上に努力を続ける貴会の更なる発展と会員各社のご繁栄を祈念し、50周年へのお祝いの言葉とさせていただきます。

お祝いの言葉

コーテック株式会社
代表取締役社長 楯 恒夫



設立50周年を迎えられ、心からお喜びを申し上げます。40周年を迎えられた10年前を振り返ると、日本では熊本地震があり、日銀がマイナス金利を導入、世界では地球温暖化対策としてパリ協定が発効し、トランプ氏が大方の予想を覆し第45代大統領に就任した年でした。混迷を深める日本にあって、40周年までそして50周年へと向かう CEMA の理念を表していたのは平野克己専務理事（当時）の座右の銘であった「徳は孤ならず、必ず隣有り」であったかと思います。これを具現化するように、VOC 削減活動にも積極的に取り組まれ、日本工業塗装協同組合連合会と共同で発足させた工業塗装高度化協議会が 2011 年に 環境省から VOC 対策功労者表彰を受けられるなど、その多大な功績に改めて敬意を表する次第です。その平野専務理事が2013年の「塗装技術」誌の取材で提示された、塗装業界の今後の課題は、まさにいま業界の「今日の課題」です。そのなかにおいて、持続可能な業界の実現に向け、補助金や若手の人材育成への取り組みなど、積極的に貢献されようとしていることに「業界の希望」を感じております。終わりに、CEMA の今後益々のご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げまして、お祝いの詞とさせていただきます。



CEMA50年の歩みを継ぎ、 未来を描く

株式会社 明治機械製作所 取締役相談役
日本塗装機械工業会 副会長
佐伯 直泰



日本塗装機械工業会（CEMA）はこのたび、創立50周年という大きな節目を迎えることができました。

当社はCEMA 創立当初より正会員の一社として参画し、その歩みを共にしてまいりましたが、これもひとえに、これまでCEMA の発展を支えてこられた諸先輩方、ならびに関係各位の長年にわたるご尽力とご協力の賜物であり、深く敬意と感謝の意を表します。

塗装業界は、日本のものづくりを支える重要な分野として、時代の要請とともに発展してまいりました。塗装機械も高度経済成長期における大量生産への対応から、品質向上・省力化、近年では環境負荷低減や省エネルギー、デジタル技術の活用に至るまで、常に進化を求められてきました。

そのような変遷の中で、CEMA は業界の連携と技術向上の要として、極めて重要な役割を果たしてこられたと確信しております。

現在、私たちはカーボンニュートラルへの対応や国際競争の激化、人材不足など、新たな課題に直面しています。こうした変革期において、CEMA が果たすべき役割はますます重要性を増しています。当社といたしましても創設の精神を大切に受け継ぎ、業界のさらなる発展に微力ながら貢献できるよう尽力してまいり所存です。次なる50年に向け、会員皆様のより一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

塗装業界を見つめて

アネスト岩田株式会社 代表取締役社長執行役員
日本塗装機械工業会 副会長
三好 栄祐



日本塗装機械工業会の創立50周年、誠におめでとうございます。半世紀にわたり塗装関連機器・システムの発展と安全・品質の向上に尽力され、産業基盤を支えてこられた歴代役員ならびに関係各位のご功績に、CEMA 副会長として深く敬意を表します。塗装は外観価値のみならず、防錆・耐久性、環境負荷低減、そして生産性を左右する重要工程です。近年は省エネ、VOC 削減、粉体・水性化、デジタル化、自動化が急速に進み、現場にはより高度な技術と協調が求められています。CEMA としても、業界横断での標準化、人材育成、情報発信を通じ、持続可能なものづくりに貢献してまいりました。アネスト岩田も会員各社の皆様と連携し、次の50年を見据え、品質の確保と環境対応を両立するソリューションを磨き、現場の安全と働きやすさ向上、技術継承にも力を注ぎ、より良い塗装の未来を共に描いてまいります。変化の時代こそ、相互に学び合う場の価値は一層高まると確信しております。今後とも業界の発展に尽力されますことを心より祈念いたします。

50年の歩みを継ぎ、未来を描く

株式会社フサメ工業 代表取締役社長
日本塗装機械工業会 副会長
多田 洋一



CEMA の創立50周年に心よりお祝い申し上げます。諸先輩方、役員の方々、事務局の皆さまの一方ならぬ熱意とご努力のたまものと、CEMA の一員として心から敬意を表する次第です。

振り返ると、私はこの業界に足を踏み入れて40年弱、CEMA との関りは30年弱、「設備部会」の担当から始まり「技術シンポジウム」などお手伝いをさせて頂き、また勉強もさせていただきました。CEMA には心より感謝しております。

技術的に熟成したこの業界において、革新的な技術を生み出すのは容易なことではないと思います。しかし、一企業では難しいことでも、この CEMA を通じ会員間のみならず協力団体、協賛団体も含め連携を密にし、それぞれの会員企業の得意とする分野のアイディア、技術、資本とを結び付け「新しい技術を生み出す」、「既存の技術を進化させる」、この架け橋としての役割も重要かつ、必要になってくると思います。現在、継続的に活動をしている「技術シンポジウム」や「技術委員会」、「統計調査委員会」、「広報委員会」等を通して新技術の情報発信にとどまらず、CEMA 内外の交流や連携がこの業界の発展を後押ししてくれるものと信じております。今後とも CEMA へのお力添えのほどよろしくお願いいたします。

新たな50年へ挑む

日本塗装機械工業会 専務理事
樋川 浩一



日本塗装機械工業会（CEMA）が創立50周年という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。1976年の創立以来、歴代役員並びに会員各位が積み上げてこられた研鑽の歴史に、深い敬意と感謝を表します。

当会が歩んできたこの半世紀は、先人たちの絶え間ない努力と技術革新の積み重ねであり、それが今日の日本の産業基盤を支える確固たる力となりました。いかなる時代も「塗装なくして物づくりなし」という本質は揺らぐことはありません。私たちは環境負荷の低減や高度な自動化技術を通じ、塗装という工程を単なる表面処理から、製品の価値と持続可能性を決定づける中核技術へと高めてまいりました。

これからの時代、私たちが次世代へ伝えていくべき価値は、既存の枠組みに捉われない「創造的挑戦」の精神です。カーボンニュートラルの実現や DX の深化など、社会課題が複雑化する今こそ、当会が技術と知恵の結集軸となり、世界を牽引するソリューションを発信し続けなければなりません。

専務理事として、先人が築いたこの盤石な基盤を礎に、若い技術者たちが誇りを持って未来を描ける土壌を育ていく所存です。CEMA が、ものづくり文化の進化を支える羅針盤であり続けることを願い、お祝いの言葉とさせていただきます。



創立と発展の歩み

「塗装なくして物づくりなし」の矜持を未来へ CEMA 創立の背景と 「ネクストコーティング2050」への飛躍

日本塗装機械工業会 専務理事 樋川 浩一

1. 四半世紀を超えた連帯の歴史 日本塗装機械工業会（CEMA）が1976年（昭和51年）8月に設立されてから今日まで、私たちは日本の「ものづくり」を支える最後の要として歩んできました。振り返れば、その歴史は常に時代の荒波との戦いであり、それ以上に競合の垣根を越えた「連帯」への挑戦でもありました。この度、私たちは長年掲げてきた「CEMA 21世紀ビジョン」を刷新し、2050年のカーボンニュートラルや社会変革を見据えた新ビジョン『ネクストコーティング2050』を策定いたしました。本稿では、CEMA がいかにして技術の殻を破り続けてきたのか、その軌跡を振り返りながら、次なる半世紀への決意を記させていただきます。

2. 創立の背景：混迷する1970年代と「個別の戦い」 CEMA 発足の背景を紐解くには、1970年代半ばの日本経済を回顧する必要があります。1973年の第一次オイルショックは「狂乱物価」を引き起こし、高度成長に沸いた日本に冷水を浴びせました。同時に公害問題が顕在化し、産業界は猛烈な逆風の中にありました。当時、塗装機器業界には横の繋がりが希薄で、各社は激しいシェア争いの中で独自の技術開発に固執する「個別の戦い」を続けていたのです。「自社の手は見せたくない」という企業間の高い壁が、業界全体の発展を阻んでいました。そうした中、在阪メーカーを中心とした組織を発展的に解消し、東京に本部を置く全国組織として正会員17社と賛助会員2社で船出したのがCEMAの始まりでした。

3. 黎明期の苦闘：統計活動を通じた信頼の醸成 初代会長が掲げた指針は、「会員相互の親

睦」と「正しい出荷統計」でした。当時は自社の出荷数量を外部に明かすことに強い抵抗感を持つ会員が少なくありませんでした。事務局は数字が特定されないよう乱数表を用いるなど細心の注意を払い、情報の秘匿性と正確性の確保に奔走しました。この地道な「統計活動」こそが、会員間に「隠し事のない協力体制」を築き、過度な価格競争から技術とサービスによる公正な競争へと舵を切るための礎となったのです。1990年代には組織の全国展開が加速し、バブル崩壊後の不況下でも「工業会の存在価値とは何か」を問い続けました。1997年に開催した第1回技術シンポジウムは、CEMAを「技術情報の発信源」へと変貌させる転機となりました。

4. 社会的責任の深化：環境問題への挑戦と組織基盤の確立 2000年代に入ると、CEMAは個別の技術開発を超え、社会全体の課題解決に深く関与するようになります。VOC（揮発性有機化合物）排出抑制という巨大な壁に対し、CEMAは行政や関連団体と連携して技術的なガイドラインの作成を推進。環境問題を技術で解決する「ソリューション提供者」であることを社会に示しました。また、2010年代には、「技術は人で成る」という信念のもと、若手経営者や技術者が積極的に発言できる環境づくりを重視し、次世代を見据えた「人材のネットワーク」を構築しました。この功績は、現在のCEMAの切磋琢磨する気風の礎となっています。

5. 「塗装なくして物づくりなし」：アイデンティティの確立 その後生まれた、「塗装なくして物づくりなし」という言葉は、私たちの合

言葉です。自動車、家電から宇宙ロケットに至るまで、この世のあらゆる製品は塗装を経て初めて「完成品」となります。保護、美観、そして機能付与。これらを担う塗装機械は、製造業の最終品質を決定づける「最後の要」なのです。私たちはこの誇りを胸に、2000年代後半に策定したビジョンに基づきグローバル化を推進してきました。しかし、創立から半世紀を前に、DX や GX、労働力不足という激変期を迎えました。これらの課題に真正面から向き合うため、私たちはこれまでのビジョンをさらに深化させます。

6. 未来への宣言：新ビジョン『ネクストコーティング2050』 新たに策定した『ネクストコーティング2050 技と知が結ぶ、塗装の枠を超えた未来へ』は、塗装の価値を社会に合わせて再定義したものです。(1) 塗装の力で、価値を創造する：塗装は製品を腐食から守り、寿命を延ばし、美しさで人々の感性を揺さぶる基盤技術です。この価値を世界に広め、持続可能な社会における豊かさを創り出します。(2) 環境と調和し、知恵で進化する：熟練の知恵や経験を最新の AI や自動化技術と融合させ、

「知」として継承・進化させます。カーボンニュートラルを実現する環境調和型ものづくりを主導します。(3) 信頼と共創で、塗装産業の未来を育む：原点である「連帯」を基盤に、会員相互の学び合いを通じて、人、技術、そして社会が調和する塗装産業の未来を、会員一丸となって築き上げてまいります。

7. 結び：塗装の殻を破り、次なる半世紀へ

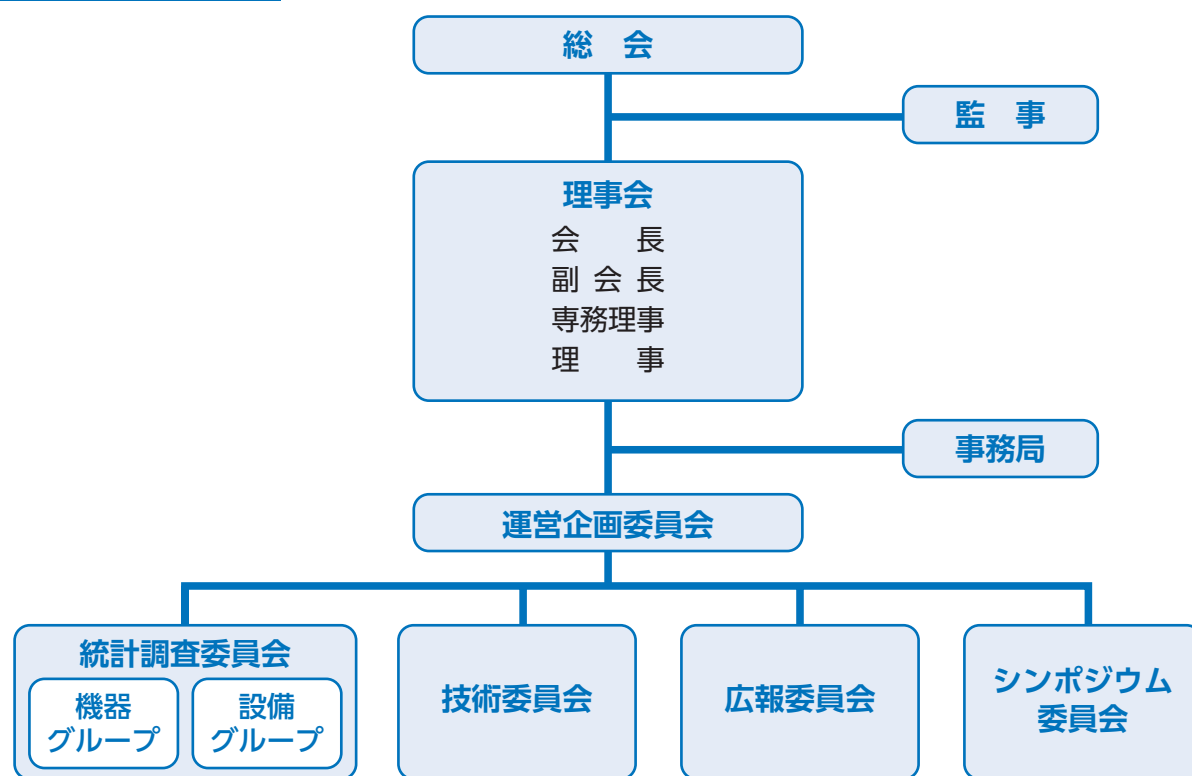
CEMA の歴史を振り返ると、常に「既存の殻」を破ることで成長してきたことがわかります。個々の企業、親睦団体という枠を破り、今や物理的な塗装機械を超えた、情報と環境の融合体へと進化しようとしています。先達が苦勞して積み上げてきた「信頼」という財産と、私たちが今手にしている「革新への志」。これらを融合させれば、いかなる時代の変化も乗り越えられると確信しています。「塗装なくして物づくりなし」。この誇りを次世代の技術者たちへ繋いでいくことが、私たちの使命です。人そして地球とともに歩み、2050年の未来を、鮮やかな技術と情熱で彩り続けてまいります。

CEMA歴代会長

	在任期間	就任時の会社名	氏名
初代	1976年8月～1988年6月	岩田塗装機工業株式会社	岩田 一也
第2代	1988年6月～1994年6月	松尾産業株式会社	松尾 一郎
第3代	1994年6月～2000年6月	旭サナック株式会社	甘利 祐三
第4代	2000年6月～2004年6月	タクボエンジニアリング株式会社	佐々木 栄治
第5代	2004年6月～2010年6月	ノードソン株式会社	小林 茂
第6代	2010年6月～2012年6月	日本パーカライジング株式会社	里見 多一
第7代	2012年6月～2016年6月	ランズバーク・インダストリー株式会社	木下 真生
第8代	2016年6月～2021年6月	アネスト岩田株式会社	壺田 貴弘 / 岩田 一
第9代	2021年6月～2025年6月	株式会社明治機械製作所	佐伯 直泰
第10代	2025年6月～	旭サナック株式会社	服部 修一

直近10年の組織体制の変化

2026年現在の組織体制



役職名	氏 名	会社名
会長	服部 修一	旭サナック株式会社
副会長	三好 栄祐	アネスト岩田株式会社
副会長	佐伯 直泰	株式会社明治機械製作所
副会長	多田 洋一	株式会社ヲサメ工業
専務理事	樋川 浩一	
理事	里見 康夫	パーカーエンジニアリング株式会社
理事	佐々木 治	タクボエンジニアリング株式会社
理事	青木 秀人	株式会社 IEC
監事	高橋 善之	東和酵素株式会社
運営企画委員長	山崎 諭志	旭サナック株式会社
統計調査委員長	木村 武司	株式会社明治機械製作所
機器グループ長	近松 聡	アネスト岩田株式会社
設備グループ長	山西 和弘	パーカーエンジニアリング株式会社
技術委員長	加藤 啓太	旭サナック株式会社
シンポジウム委員長	林 慶一	株式会社大気社
広報委員長	松丸 浩司	タクボエンジニアリング株式会社

2026年 3月現在

2010年代、当工業会の活動は、機器部会・設備部会・技術部会の三部会を中心に展開され、これらが主体的に工業会運営を担っていました。その後、活動領域の拡大を目的として、Automotive 協議会（自動車塗装関連の情報交換の場）や、もの作り懇談会などの新たな枠組みが設けられ、活動の幅は着実に広がっていきました。

一方で、機能の分散により、従来の三部会における人的リソースが相対的に薄くなり、工業会全体としての活動推進力に課題が生じつつありました。こうした状況を受け、2019年の第43回総会において、組織体制の抜本的な見直しが行われました。

この再編により、Automotive 協議会は技術部会と統合され、新たに「技術委員会」として発足しました。また、AMG ホームページ活性化チームとモノ作り懇談会は統合され「広報委員会」へ、機器部会と設備部会は統合され「統計調査委員会」へと再編されました。従来からのシンポジウム委員会および運営企画委員会は継続され、工業会の組織体制は五委員会制へと移行しました。

委員会発足当初は、活動の早期活性化を図るため、全委員会において理事が委員長を兼務し、理事の関与を強めた体制で新たなスタートを切りました。その後、委員長職は順次各委員に引き継がれ、現在では理事の兼務は解消されていますが、スリムかつ機動的な委員会体制は現在に至るまで継続され、工業会活動の活性化に大きく寄与しています。

また、各委員会の委員長は運営企画委員を兼務する体制となっており、年3回開催される運営企画委員会は理事会との合同開催とすることで、意思決定の迅速化と運営の合理化が図られています。理事と各委員会の長が一体となり、工業会の将来像を議論できる点は、当工業会の特長の一つといえます。部会から委員会へと位置付けが高まったことで、各委員会の責任意識も一層強化され、工業会全体として、スリムでありながら強靱な組織体制が構築されました。この体制は、その後のコロナ禍においても、工業会活動を継続・発展させる大きな支えとなりました。

委員会制導入当初における各委員会の役割は、以下のとおりです。

1. 運営企画委員会

CEMA 全体の運営を担い、各委員会との調整を図るとともに、理事会との円滑な意思疎通を担う。

2. 統計調査委員会

出荷統計を取りまとめ、変化の激しい市場動向に関する情報を内外に発信する。

3. 広報委員会

対外的な窓口として、ホームページの管理・運営や展示会出展の企画・立案を行う。

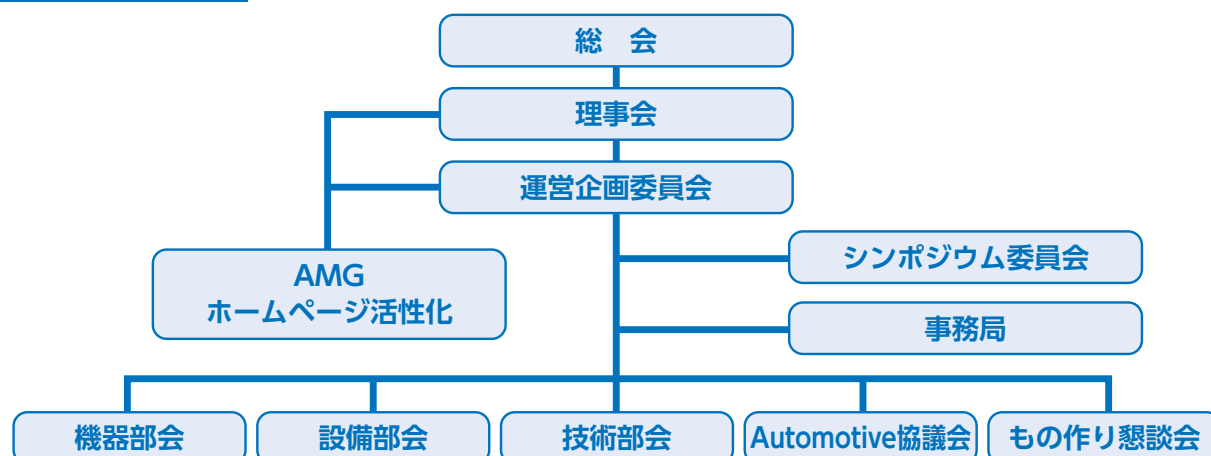
4. 技術委員会

工業会活動の中核として、標準化の推進、機器の安全使用に関する啓発、環境への貢献を図る。

5. シンポジウム委員会

毎年、発展的かつ継続的にシンポジウムを企画・運営し、業界全体の活性化に寄与する。

2016年当時の組織体制



CEMA 会員リスト

2026年2月現在

正会員

株式会社 IEC	ツカサ工業株式会社
旭サナック株式会社	東和酵素株式会社
アネスト岩田株式会社	トリニティ工業株式会社
アンデックス株式会社	日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社
ABB Robotics Japan 株式会社	日本ワグナー・スプレーテック株式会社
オーウエル株式会社	パーカーエンジニアリング株式会社
川崎重工業株式会社	株式会社ヒートエナジーテック
株式会社栗田工業	Binks ジャパン株式会社
株式会社ケミコート	ファナック株式会社
コーテック株式会社	株式会社明治機械製作所
株式会社大気社	株式会社安川電機
タクボエンジニアリング株式会社	株式会社ヲサメ工業

賛助会員

株式会社アオイ	有限会社シーティータカハタ
アジアケンディジャパン株式会社	有限会社ジーエムデー
イサム塗料株式会社	中川化学装置株式会社
いすゞ塗料株式会社	日新産業株式会社
イデア株式会社	日本パーカライジング株式会社
エクスカタック株式会社	日本ピーシーエス株式会社
株式会社岡久	松尾産業株式会社
株式会社企画商事	株式会社メサック
久保井塗装株式会社	森フィルター株式会社
サメス株式会社	ロックペイント株式会社

ネット会員

ダイヤアクアソリューションズ株式会社



正会員24社の技術の歩み

株式会社 IEC

塗料循環供給装置

大型の塗装工場などに導入される「塗料循環供給装置」。塗料を調節器で一括管理し、配管を通じて工場内の各ラインに同一の塗料を連続供給する設備です。



トリアス

塗布効率を高める3方向ノズルを備えた回転式塗布ガンです。自動車アンダーコートをはじめとする高粘度材料専用の塗布ガンで、3方向に吐出するノズルヘッドは、角度を自由に設計が可能です。



IEC LABORATORY

設立60周年記念事業として、全国のトライ機能を集約した施設を設立。「塗装」、「接着」、「充填」をハンドリングし、その役割を担う製造工程において、流体の移送技術でお応えいたします。



1960年 創立

1963年

1998年

2011年

2020年

2025年

ソルブエアー

溶剤にエアーを正確な比率で混合させることにより、細かなバブルを含んだ乱流状態の混合気をつくり、洗浄効果を高める装置。塗装色替え洗浄に使用する溶剤の使用量を約50%節減し、洗浄時間の減少、VOC大気汚染の削減に貢献します。



有機物磁気熱エネルギー変換装置/バイオガス発生装置

磁気熱エネルギー変換装置は段ボールやペットボトル等の有機物で熱水を発生させ、バイオガス発生装置は食品等の廃棄物からバイオガスを発生させて、発電及び温水や暖房のエネルギー化する装置です。



旭サナック株式会社

国産第一号のエアレス塗装機を開発

米国J.A.ビーデ氏と提携し製造販売を開始。その後は、ホットエアレス、二液エアレス、電動エアレス、エンジンエアレスなどのシリーズ化に成功し、重防食分野などで塗装の高効率化に貢献した。



自動車ボディ塗装ライン専用の静電ハンドガンHB150を開発

2000年には後継のHB2000シリーズを投入し、工程に応じた40kV・60kVモデルや多丁使用対応コントローラで顧客ニーズに応え、多くの自動車メーカーに採用された。



CNC二液塗装機 ACW1000を開発

高い混合精度、短時間洗浄、省スペース設計が評価され、建設機械分野などでご採用いただいた。近年は、生産管理機能を充実させた単色用ACW1200EX、多色用ACW4000EXを展開。



1942年 創立

1958年

1979年

1996年

1997年

2015年

NC塗装機（カード式）「SUNAC3000」開発

後に社名にも採用された「SUNAC」はレシプロレータの制御装置で、大面積塗装における無駄吹きを大幅に低減。レシプロ塗装の効率化を実現し、その後に続く自動塗装機開発の礎となった。



デュアル電界方式の静電粉体ハンドガンを開発

特許技術により、高い塗着効率と良好な仕上がりを両立。2022年のデザイン刷新と同時に、粉体技術センターも開設。松尾産業から継承した粉体塗装事業は開始から20年を経て、事業の柱へと成長した。



アネスト岩田株式会社

日本で初めて塗装用エアスプレーガンを開発。現在もWIDERシリーズとして世界中のペインターに愛され100年。自動車補修用スプレーガンKIWAMI / WS-400シリーズと共に全世界で最高レベルのスプレーガンとして高い評価をいただいています。



2000年代、デジタル家電全盛期に高品位・高効率塗装システムを市場に投入。高意匠塗装用自動ガンGFA-200や塗装ロボット『マエストロ(MRP-2100)』等の革新技術で、高精度・塗料削減・生産性向上を実現し、工業塗装の進化に貢献してきました。



1999年、世界初のV溝付塗料ノズルを開発。その霧化技術を搭載した自動車補修スプレーガンのフラッグシップモデル『WS-400』を2009年に発売しました。欧州をはじめ全世界で好評を博し、2026年現在『WS-400SR2』へ継承しています。



1975年に国産初の油圧式多関節形塗装ロボットを開発し、1985年には世界初の電動式多関節形塗装ロボットを開発しました。業界の先駆者として塗装の自動化（省人化）に貢献してきました。



工業塗装用スプレーガン『WIDER1』を発売。人間工学に基づき『W-101』の設計を全面刷新し、品質、安定性、操作性を追求しました。2026年に創業100周年を迎え、原点回帰させた『WIDER』ブランドと共に次の100年を歩みます。



アンデックス株式会社

自動車補修用塗装設備の製造販売を開始。



鉄道車両向け大型塗装設備の納入を開始。



航空機・航空関連部品向け塗装設備の納入開始。作業環境を整え作業者の健康を守る、空調機能付き塗装・乾燥ブース『CAB-SP』<中国経済産業局第8回「ものづくり日本大賞中国経済産業局長賞」を受賞>を発売。



自動車補修用塗装設備の年間納入台数が200台を突破。



環境負荷の低減、作業環境の改善など、サステナビリティに根差した空調機「WETCOMII」や暑熱対策システム「AC-ZONE」の開発に着手。



ABB Robotics Japan 株式会社

アメリカからの輸入品で、溶剤塗料に対応したレシプロケータ用ベル型塗装機「Turbo Mini Bell」により、日本国内における自動静電塗装が開始。



G1 COPES BELLが静電塗装機としては初めて水性塗料用に対応し、海外を中心に好評を博した。国内でも2000年ごろに塗装水性化の波が訪れ、カートリッジを交換するだけで色変えが可能なCARTRIDGE BELLが広く使用された。



PixelPaint

インクジェット技術を活用し、塗着効率100%を実現する次世代の塗装機。手間のかかるマスキング作業を無くし、塗料使用量やブースの電力消費、VOCを減らすことで塗装コストを大きく削減。



1883年 創立

1983年

ロボット用国産塗装機のROBOBEL IIが販売開始。この製品を端緒にロボットによる塗装が実用化され、現在に至る。



1984年

1989年～

レシプロケータ用国産塗装機の $\mu\mu$ Bellと、その派生製品が国内のお客様から広く受け入れられる。特に $\mu\mu$ Bell901は塗装機内部HV昇圧仕様で評価が高く、後継製品である $\mu\mu$ Bell923の販売が好調だった。



1999～2000年

お客様の多彩な要望に応えるため、様々な機能を続々と追加。ROBOBEL951ではパターンコントロール機能を搭載し、RB1000で大吐出量に対応。さらにRB1000iではIoT対応、最新製品のRB1000i-Sでは高塗着塗装を実現した。



2005年～

2023年

オーウエル株式会社

近江屋興業(株)設立

戦時中の塗料の一元統制に伴う企業整備が行われる中、大阪で3社の塗料販売店が合併し「近江屋興業株式会社」として設立。



技術センターを開設

塗料や塗装にかかわる知見を開発・蓄積する「技術センター」を開設し、当社独自の塗膜形成技術を確認。今日に至るまで、塗装の品質向上とトータルコスト削減、塗装に適した作業環境作り等、ノウハウの蓄積と技術の提供に励んでいる。



オーウエル(株)に社名変更

近江屋興業から引き継いだ「O」に、元気・立派・十分を意味する「WELL」を組み合わせ、時代にふさわしい考え方や提案を行う存在を目指すべく社名を「オーウエル(O-WELL)株式会社」に変更。



1943年 創立

1943年

エレクトロニクス関連事業を開始

半導体、電子部品、ソフトウェア、産業機器、化成品の販売及び輸出入を行う「ユニ電子株式会社」を譲受したことをきっかけに、自動車向け磁気センサー（ホールIC）の取り扱いを開始。



1970年

1985年

東京証券取引所市場第二部に上場

2018年（平成30年）12月13日に東京証券取引所市場第二部に上場し、2022年4月には東京証券取引所スタンダード市場に移行。



1992年

2018年

川崎重工業株式会社

1968年10月、当社とユニメーションは「ユニメート」に関する技術提携の契約を正式に締結し、翌1969年に、日本初の産業用ロボット「川崎ユニメート2000 型」を国産化。以後、高度経済成長下の人手不足に悩む自動車産業に採用される。



成長著しい中国への進出。“世界の工場”として一大消費地としての急成長を続ける中国国内に相次いで拠点を開設。販売・サービス拠点に加え、“ロボットがロボットをつくる”高度自動化工場の設立や、部品調達拠点など、様々な機能を現地に充実させていく。



多品種少量の生産にて塗装ロボット化が困難な分野へのソリューションとして「塗装 Successor」発表。当社の遠隔協調技術やAIを活用し、人の作業を覚え、自動運転や技能伝承を可能とするロボットシステムを開発。



1896年 創立

1968年

2000年

2006年

2017年

2025年

神戸製鋼所より塗装ロボット事業を継承。神戸製鋼所の持つ高い技術力・ノウハウを継承し、顧客ニーズに応じたきめ細やかな商品メニューをラインナップ化。当社の塗装ロボット事業が大きく拡大。



当社はヒューマノイドロボットKaleidoを2015年から開発開始し、2025年国際ロボット展にて、最新バージョンの「Kaleido 9」を披露。ロバスト性（強靭さ、堅牢さ）の高さを生かし、災害現場での活動などを目指して開発中。



株式会社栗田工業

熊本市健軍町にて創業。



東部工場開設（現本社・ショールーム）。断熱パネル式塗装ブース製造開始。カラフルな塗装ブースが可能に！



第2工場開設。タレットパンチプレス導入。より精度の高い塗装ブース製作を実現。



1949年 創立

1949年

1985年

1994年

1999年

2023年

ダクト新工法導入。空調・換気ダクト製造の機械化。



第3工場開設。塗装ブース製造用の最新の加工機械を導入（プレス機、レーザー切断機、溶接ロボット）。



株式会社ケミコート

和光化学株式会社を設立、1972年に現在の社名である株式会社ケミコートに社名変更。



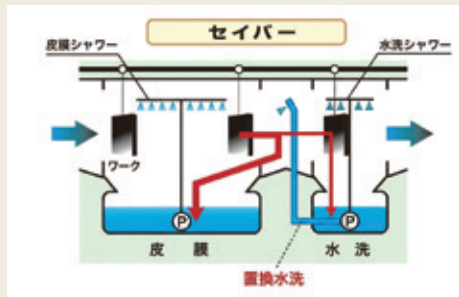
インドネシアで合併会社「PT.Chemicoat Artoda Indonesia(PT.CAI)」を設立。



1957年 創立

1957年

節水式表面処理方法特許取得。
水洗水の給水量を大幅に減らす技術（節水式）と、水洗から常時排水を出さない技術（クローズド式）で特許を取得。



1994年

2007年

2014年

創立50周年を迎え、千葉県東金市に工場を建設。



コーテック株式会社

1967年：株式会社総合塗装技術センター（コーテックの旧社名）創業。
1968年：工業塗装に関する海外視察を開始（第1回は米国、その後も欧州を含めて粉体塗装を中心に視察）。計30回、のべ700余名の参加を得ました。



お客様の要望にお応えする形で、水洗塗装ブースのバックシャワー用のノズルを開発。水洗塗装ブース用のノズルの最大の課題は「めづまり」でした。課題を解消したノズルとして評価を得て、販売を開始し、ラインアップを増やしながら現在に至っています。



研究機関の要請を受けて、塗料・塗工液・フィルムの研究開発・品質管理用テーブルコーター（小型自動フィルムアプリケーションター）を開発。独自技術のフィルムアプリケーションターとともに販売を開始し、現在に至っています。



1967年 創立

1967年

1975年

1980年

2020年

2024年

「粉体塗装研究会」を開催（以後毎年隔月に開催、会員企業は230社）。工業塗装の低公害・無公害化を研究する場を提供し、業界でいち早く粉体塗装の普及に努めました。

1967年度 ● 粉体研究者からみた粉体塗装(1) ● 電界カーテンを利用した粉体塗装ブース ● 塗装工場の工場からの粉体塗装 ● エステーパワーカーティングの概要 ● 粉体研究者からみた粉体塗装(2) ● T.F.P.C. 薄層粉体塗装システム ● ミシンへの粉体塗装を實現して ● 粉体塗装のシステムエンジニアリング ● フッソ樹脂(アフロノCSP)による粉体塗装 ● パーシオン社の防塵プロセス ● ヨーロッパの粉体塗装の現況(増田報告)	長 坂 秀 雄 伊 藤 次 島 田 重 雄 坂 井 正 長 坂 秀 雄 坂 井 剛 大 竹 良 重 坂 井 正 司 安 田 毅 松 浦 彰 長 坂 秀 雄
--	--

月刊「塗装技術」の出版元となる。責任者の突然の病気に見舞われた理工出版社の意向により出版元となる。紙媒体としての月刊「塗装技術」を中心に、単行本の企画・出版、デジタル出版、動画配信などを開始し、現在に至っています。



株式会社大気社

1913年、ドイツ系の機械輸入商社エル・レイボルド商館を母体とし「合資会社建材社」の名で創立。当初、ドイツから輸入した建築材料の販売や据付を主に行っていたが、工事を併せ行う必要が生じ、ドイツから技師を招聘し、最新式の暖房技術の導入を図った。

当社が強制循環式温水暖房設備と浄化槽を納入した「東京海上ビル」



自動機器部門（ロボット、ガン・ベル）やコンベヤ部門、電気制御、塗料供給など周辺技術を強化。2002年上海にコンベヤ設計会社を、2004年に天津にコンベヤ製造会社を設立し、コンベヤ事業への参画を果たす。その後、海外で実績を持つまでに成長する。

研究開発センターの塗装ロボット（中国・天津）



カーボンニュートラル実現に向け、自動車外装などを従来の塗料を用いたスプレー塗装（ウェット塗装）に代わり、フィルム貼合により加飾するドライ加飾システムを開発。実生産ラインへの導入に向けた実証の場として、自社研究開発施設内にデモラインを構築。

塗装システム事業の研究開発施設であるテクニカルセンター（神奈川県座間市）に設置した加飾ドライシステムデモライン



1953年、自動車の塗装設備事業に本格参入。きっかけは、いすゞ自動車大森工場のスプレーブース、オープンの工事だった。1963年8月には、チリ日産社の新設工事を受注。当社の海外における塗装設備工事第1号であり、海外展開の始まりとなった。

いすゞ自動車大森工場スプレーブース



自動車塗装技術国際会議「SURCAR America 2025」にて「ドライ加飾システム：デモラインの開発、建設、立ち上げ、試運転」と題したプレゼンテーションを行い、「Award for Innovation」を受賞した。

プレゼンテーションを行ったグループ企業であるTaikisha USA, Inc.のJoel Campbell氏（写真左）



タクボエンジニアリング株式会社

タクボエンジニアリング株式会社設立
排熱回収型熱風乾燥炉
「ドライテック」発売開始
- 塗装乾燥機 -

直火式の危険性を避け、かつ、エネルギーを再利用する仕組みを開発。低燃費で、立ち上がりが早く、白物に強い。



自立型 防爆4軸ロボット「スワン」
発売開始
- 進化形塗装ロボット -

吊り下げ式から始まったロボット開発は、代を重ね自立型へとラインナップ。取り回しが良く設置が楽なRの技術搭載機。



塗装に必要な周辺機器を一体化した
コンベアレス自動塗装
「クイックシステムUV」新開発
- 拡張形塗装ロボット -

ロボットの役割を最大限発揮すると塗装工程が1つに収まる代表作。除塵→塗装→乾燥→UV照射を1台に収めた新発想機。



長寿命型低騒音設計 塗装用ブース
「オイルブース」発売開始
- 塗装ブース -

洗浄液にオイルを使用し、静かでもしかも長寿命の塗装ブースを開発。塗料ミストもバップル効果で清浄機能向上、全面吸い込み開放設計でオーバースプレーによる不良防止。



ティーチングに人工知能AIを備えたティーチングアシスタントソフトウェア「スワニストAI」新開発
- ティーチングの自動化 -

ロボット塗装における設定やプログラム作成、さらに塗装の条件設定、治具開発などの手間をAI技術により大幅に削減可能に。



ツカサ工業株式会社

塗装プラントの総合メーカーとして創業。企画・設計・製作・施工を一貫して手がける専門メーカーとして営業開始。



ベトナムに V.N.T VIETNAM CO., LTD. を設立。ベトナム国内の塗装プラント需要の対応強化及び海外製作拠点として生産体制を整備。



中日本支店・亀山工場を開設（三重県亀山市）中日本地区の営業強化及び国内の生産体制を整備。



1978年 創立

1978年

2011年

2014年

2019年

2024年

中国に昆山弘司工業設備有限公司を設立。中国国内の塗装プラント需要の対応強化及び海外製作拠点として生産体制を整備。



津サービスセンターを開設（三重県津市）海外製作品検査体制の強化及び国内の物流体制を整備。



東和酵素株式会社

微生物製剤の開発

様々な体外酵素を生産する好気性菌。バクテリアから酵素を生産させる製造方法を確立。澱粉質分解酵素の力を活用し、繊維加工で使用する糊抜剤の製造販売を開始する。



新分野展開

厚生省認可「医薬部外品 酵素入浴剤」の製造販売を開始する。他に類をみない成分を配合し、肌を滑らかにする効果を実現。



塗装ブース循環水への展開

塗装ブース用微生物製剤「ミタゲンクリアー」開発・販売開始。排水処理剤の応用で塗装ブース循環水の微生物処理に着手。水の腐敗臭軽減、脱ケミカルと産廃物の減容化、CO₂排出量削減、ブース水の延命化など。



1957年 創立

1957年

1972年

1980年

2003年

2025年

水処理分野への展開

水処理に必要な微生物製剤を開発。微生物の有機物分解能力を活用し、水浄化市場への展開を開始。

- ・工場排水処理
- ・一般浄化槽



製造設備の更新

CO₂排出量削減に適合した製造設備へ更新。独自の技術革新の基盤作りとSDGsに貢献する。



トリニティ工業株式会社

自動塗装機を連続塗装工程へ導入し、生産性、塗装品質を向上。その後モレシプロ式、曲面追従式など、更に塗装品質を向上させる技術を市場へ展開。



超高塗着塗装機をトヨタ自動車株式会社と共同開発。自動車、部品（金属、樹脂）などの市場へ導入展開。この6年間で約500台を販売。



豊田工場へ、オール電化の省エネ塗装設備を導入。非化石証書を活用し、CO2排出実質ゼロを達成。塗装ブースのコンパクト化、ドライ集塵技術・熱エネルギー技術などの導入により、水レス、排熱再利用など、環境にやさしい設備を構築。市場へ展開。



1946年 創立

1970年

2007年

2020年

2022年

2025年

愛知県みよし市に外装塗装部品工場を竣工。環境にやさしい工場として、省エネ、色替時の塗料・洗浄剤ロスのミニマム化、廃棄物ゼロを狙った塗装設備・システムを導入。市場へ展開。



本社の隣に環境技術の未来を切り拓く拠点として、AIやIoTを活用した塗装システムの研究、カーボンニュートラルの実現に向けた技術開発などを推進する技術開発センター（TTCS）を設立。



日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社

日本ペイントプラント・エンジニアリング（株）
塗装プラント専門会社として設立。
（日本ペイント（株） 100% 出資）

日本ペイント・インダストリアルコーティングス（株）
日本ペイントホールディングス化による機能専門会社として統合。
塗料製造販売及び塗装プラント設計施工。



前処理・
電着総合
塗装設備3D

1988年 創立

1988年

2010年

2015年

2026年

日本ペイント工業用コーティング（株）
工業用塗料販売会社と合併。



キャプライン電着塗装設備

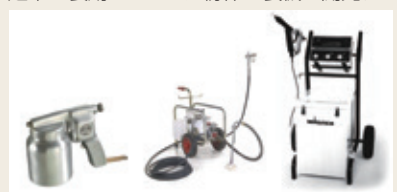
現在に至る。



東京本社

日本ワグナー・スプレーテック株式会社

1947年ヨーゼフ・ワグナーがWagner Vertriebses GmbHを設立。スプレーガン、建築塗装用エアレス、粉体塗装機を開発。



SprayGun Paint Spray for Contractor Powder Coating System

「作業性の改善」要望を受けて、塗着効率の高いHVLP（温風低圧）、HEAチップを開発。



HEA airless tip HVLP

「環境負荷の軽減（脱VOC）」「生産性の向上」という要求を受けて、完全自動粉体塗装システムを開発。



Automated Powder Coating System

1947年 創立

1947年～

高度経済成長に伴って、工業塗装が拡大。工場向けエア駆動式ピストンポンプを開発。



HighPressure pneumatic airless

1972年

1990年～

「作業性の改善」を目的としてコードレス需要が高まった。充電式バッテリー駆動のSprayPack18V、FC400018Vを開発。



SprayPack18V

FC4000 18V

2018年

2024年

パーカーエンジニアリング株式会社

1951年2月特許庁より防錆加工装置の実用新案が認可され、これを機に日本パーカライジング（株）内に設備部が創設。当社のエンジニアリング業務が開始されました。以来日本における表面処理業界のリーダーとして活動を続けております。



2017年長年の実績を持つ粉体塗装機器ブランドPARKER IONICSを日本パーカライジング（株）より統合。PulsPower9000では高効率塗装を実現し、IoTシステムLEAPS CPPAとの連携により工場のDX化を推進します。



2023年に技術開発センターを刷新。最新の溶剤・粉体塗装設備や洗浄装置、多用途乾燥炉を備え、評価から実証まで一貫対応可能な体制を整備。先進デジタル技術と表面処理・塗装技術を融合した次世代スマートラボとして運用を開始しました。



1951年 創立

1951年

1965年タイ進出を皮切りに東南アジア・台湾へ展開。70年代は東欧・旧ソ連、1987年には米国へ拡大し、1995年には中国、2005年にはインドなど、現地法人設立により様々なメーカー様の生産を支援しております。



1995年

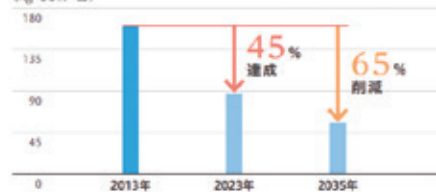
2017年

2023年

2035年

パーカーエンジニアリングは、2035年までにCO₂排出量65%削減（2013年比）を掲げ、脱炭素社会への貢献を推進。生産現場の担い手不足の解消、生産工程の最適化など、持続可能な生産体制の構築に貢献してまいります。

モデル塗装ラインにおけるCO₂削減の状況(2013年比)



株式会社ヒートエナジーテック

2021年10月1日、カーボンニュートラル時代をけん引するエネルギーソリューションカンパニーを目指し、(株) 桂精機製作所 熱設備事業部と東京瓦斯電炉(株)が統合、(株) ヒートエナジーテックとして新たにスタートしました。

本社
神奈川県
横浜市



神奈川県綾瀬市にJET熱風式・遠赤外線加熱式・熱風加熱式による加熱・乾燥試験が可能な実験炉を設置。熱風発生装置には水素燃焼仕様も採用可能で、水素燃焼に関する各種検証にも対応しています。塗装乾燥炉をご検討のお客様にご活用いただいております。



カツラグループとして、2050年のカーボンニュートラル社会の実現に向けた取組みの一環として、当社グループ会社である株式会社桂精機製作所 山梨工場の粉体塗装ライン乾燥炉に、水素混焼式熱風発生装置を導入しました。



東京ガス株式会社様との共同開発により、水素直接燃焼式熱風発生装置「AH-NMH2」を発売。塗装乾燥炉で多くの実績を持つAH-NMシリーズ(都市ガス・LPG仕様)に新たに燃焼時にCO₂を排出しない水素仕様をラインナップしました。



カツラグループの海外拠点であるKATSURA VIETNAM JOINT STOCK COMPANY(ベトナム)に当社より日本人技術員2名を派遣。現地にてバーナや塗装乾燥炉の設計・製作を行い、日本国内に加え、海外市場向けにも販売しています。



Binks ジャパン株式会社

国産一号機ベル型塗装機 J3ベル
ボールベアリング軸受けエアモータの採用により、当時としては最高回転数30,000rpmの高速化を達成した。当社の発明であるベルカップのエッジ部に細かい溝を切ることで塗料の良好な微粒化を実現した。



スペースガンシリーズ誕生

実用金属の中で最も軽い「マグネシウム」をボディ素材に世界で初めて採用し、超軽量を実現した。比重1.74はアルミニウムの2/3で、リサイクル性に優れ、人体に無害。外装のフッ素樹脂コーティングは汚れを簡単に落とせる。



左がLUNA(ルナ)、
右がAPOLLO(アポロ)

塗料循環用電動スマートポンプ

エア駆動式ポンプに比べて大幅な省エネを実現した。液封部にはペローズシールを採用しており、半密閉型の構造にて通常運転時は塗料および材料の外部漏れがない。駆動部は偏心カムの採用により、吐出圧脈動が少ない。



スマートポンプE2-30



高電圧遮断装置 AquaBlock

従来の絶縁方式に代わり、VOC(揮発性有機化合物)の削減に貢献する水系塗料の直接帯電式静電塗装を可能とした。塗料の連続供給及び高速色替えを可能とすることで、塗装現場の省スペース化と高い安全性を実現した。



第三世代のAquaBlock3

高塗着塗装機RMB26

新規開発した適正電圧・電流の高速制御技術により、安全性が劇的に向上したことで被塗物との距離を最大限近づけることが可能となり高い塗着効率を実現した。50～300mmの任意の塗装距離に応じた最適な静電塗装が可能である。



ファナック株式会社

油圧式塗装ロボットNC Painterをリリース。その3年後には、電動かつ中空手首を備えた塗装ロボットP-150をリリース。駆動モータにACサーボモータを採用した、6軸垂直多関節型ロボットが世の中に普及。



7軸塗装ロボットP-1000iAをリリース。6軸ロボットに1軸追加された冗長軸を備え、姿勢の自由度を活かして、狭いスペースで効率的な塗装が可能。コンパクトな塗装ブースを実現し、ブースサイズ低減による、空調エネルギー、CO₂排出量削減に貢献。



世界で初めて、国際規格の防爆認証を取得した、防爆協働ロボットCRX-10iA/L Paintをリリース。防爆が必要な環境に、安全柵無しで導入が可能。人が直接ロボットを動かして教示するダイレクトティーチ機能も活かし、塗装の自動化範囲を拡大。



1972年 創立

1982年

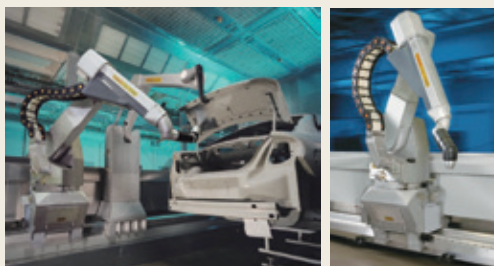
1997年

2013年

2024年

2026年

自動車のフードトランクオープナロボットP-10/15をリリース。連続搬送ラインでの自動車内板塗の自動化を実現。その4年後には、塗装機器をロボットアームに搭載した塗装ロボットP-200Eをリリース。後の代表機種P-250iBに発展。



使いやすさと高性能を兼ね備えたミドルサイズ塗装ロボットP-55/15-21Aをリリース。ロボットの軌跡がオーバーライドによらない軌跡一定機能により、低速での教示で高速動作の確認が可能。バッテリーレスエンコーダを採用し、保守工数と環境負荷を低減。



株式会社明治機械製作所

国内試作第一号

日本国内のスプレーガンはすべて高価な輸入品（アメリカのデビルビス社製など）に頼っていました。価格が高く、故障しても部品が手に入らないという現場の苦労を解消するため、国産化への挑戦が始まりました。



岡山工場に生産統合

開発・設計・製造の全機能を一拠点に集約し、一貫した品質管理体制を確立。以来、今日に至るまで岡山の地から安心と信頼の製品を全世界へお届けしています。



FINER-G14発売

明治自補修専用ガンの原点となった名機。現社長である福田 浩二によって設計開発された高い微粒化性能と最適重量バランスコンセプトに基づいた優れた操作性でプロの支持を集め、確固たる地位を確立。



1924年 創立

1932年

1990年

2000年

2003年

2024年

廃缶処理機カンパックスシリーズ

使用後の塗料缶、ペール缶を空気圧で1/8～1/10の容積に減容するCPT、手で角缶を開封するCPH、電動油圧式のCPE。塗装現場や工場でかさばる空き缶を効率よく安全に処理するための強力なラインナップです。



創業100年

1924年の創業以来、塗装機器と空気圧縮機のパioneerとして歩み続け100周年を迎えました。長年の技術を礎に現場の課題を解決。次の100年も日本のものづくりに寄り添い、確かな品質で未来を塗り重ねます。

空気と向き合い創業100年
未来を生み出す新たな挑戦



株式会社安川電機

創立。
1917年には、炭鉱用電気機器の受注製造から事業を開始。
初めて20HPのカゴ形電動機を受注。炭坑向けが主流であった背景に対し、日本の防爆技術発展にも寄与した。



サーボモータの技術を活用し、日本初の全電気式産業用ロボットを開発。



電気式産業用ロボットの技術に対し防爆モータのノウハウを融合させることで、塗装用防爆形ロボットを製品化。



1915年 創立

1915年

当時主流であった油圧式サーボの置き換えを目的に世界初となるミナーシャモータを開発。
名称の由来は「ミニマム(最小)」の「イナーシャ(慣性)」の造語。



1958年

1977年

塗装ロボットとワークを協調動作させることでCNに貢献できる傾動、捻転軸付サーボトンボと、開口部内側の塗装も可能としたユニークな構造の7軸塗装ロボットを製品化。安川電機は塗装ロボットシステムに新たな価値を提供し続けています。



MOTOMAN-PA3050HB



MOTOFEEDER TILT-MTP5026

1990年

2025年

株式会社フサメ工業

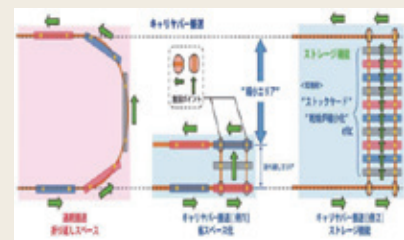
1965年に米国リットン社とトロリー CV「チェンベヤー」を技術提携し塗装プラントと搬送システムメーカーとして設立。トロリーCVの欠点のオイルダスト落下防止をレール開口部を上部に設けることで特許取得し「ダスターチェンベヤー」の製造販売開始。



「チェンベヤー」新型P&Fシステムを開発。従来の1/2のコストで設備を計画できるため省人化の採算コストに適合します。分岐、合流、ストレージが可能で移積装置との併用で塗装ラインの更なる省人化、短縮に寄与します。



長尺物・重量物ワークのキャリヤバー搬送の旋回ポイント式「直角移載装置」の特許取得、製品化。長尺物搬送での大きなターンエリアの解消や長手方向の乾燥炉を直角移載側に設置することで省スペース化を可能とする。



1965年 創立

1974年

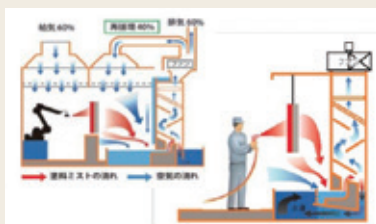
1977年

1991年

2001年

2019年

塗料ミスト捕集効率99%のHSブースを特許開発。塗料ミストはエアーカーテンにより水中に叩き落され気液接触により捕集、塗料カスはブース前面に集積する。また総排気量を従来比2/5に削減し規制に貢献するセミクローズドHSブースも開発し特許取得。



(株)ユービー・テクニカより特許を継承。アルカリ電解水により高いpHで維持された塗装ブースにおいて、塗料ミストとアルカリ電解水をスクラバーで高速に接触させる事で塗料スラッジの粘着性を解消するペイントキラー剤を使用しないスラッジ処理が可能。



The background image is a photograph of a church interior. It features several tall, narrow stained glass windows with abstract designs in shades of yellow, orange, and brown. To the right, a metal spiral staircase is visible, winding upwards. The lighting is warm and soft, coming from the windows. An orange semi-transparent banner is positioned horizontally across the middle of the image, containing the title text in white.

工業会の活動と成果

技術委員会

活動目的

日本塗装機械工業会（CEMA）における技術委員会は、業界全体を取り巻く技術的課題に対し、会員各社の知見を持ち寄り、調査・検討・情報発信を行う役割を担ってきた。

単なる情報にとどまらず、現場に根差した課題を業界全体の視点で整理し、共通の指針として発信することが、技術委員会の重要な使命である。

過去を振り返ると、塗装業界を取り巻く環境は大きく変化してきた。

環境規制の強化、品質要求の高度化、人手不足を背景とした省人化・自動化の加速、省エネルギー・脱炭素への対応など、技術的に対応すべき課題は年々複雑化している。

こうした変化の中で、企業単独では対応が難しい課題に対し、業界全体としての共通認識を形成し、方向性を示すため、調査、意見交換で得た情報を技術資料に纏め発信してきた。

年度	主な活動内容
2016年	● 塗装用語集を「塗装技術」に連載 ● ホームページの塗装用語集を更新 ● 「塗装用語辞典」を発刊 ● JIS 六角ボルト・ナット規格対応検討 ● 塗装機器の防爆規格の検討
2017年	● 塗装現場におけるリスクアセスメント検討 ● 「塗装工場における静電粉体塗装の安全対策」再販について検討
2018年	● CEMA 環境宣言の発信 ● ホームページ FAQ の更新 ● IPCO との活動連携検討 ● 静電塗装の着火に対する安全性評価法と指針の検討
2019年	● 勉強会の開催 ● 塗装工程の安全作業に関わる資料の検討
2020年	● 勉強会の開催 ● 塗装工程の安全作業に関わる資料の作成
2021年	● 塗装工程の安全作業に関わる資料の作成 ● 静電ハンドガン安全指針作成の経過確認
2022年	● 塗装工程の安全作業に関わる資料を公開 ● CEMA が登録した JIS の取り扱い検討 ● コーティング・コンソーシアム（CoCo）発足
2023年	● 工業塗装に関連する企業へ CO₂排出量に関するアンケート実施 ● アンケート結果をまとめ情報発信
2024年	● CO₂排出削減ガイドンスブック第一版 発刊 ● 塗装用乾燥炉の基準作りをスタート
2025年	● CO₂排出削減ガイドンスブックの第二版発刊 ● 塗装用乾燥炉の設計における省エネ・安全基準策定

2022年 「事例に学ぶ塗装現場の安全性」 掲載

塗装現場においては可燃物である塗料の使用による、火災や爆発のリスク、揮発した有機溶剤による中毒症状など安全衛生面でのリスクが存在する。

各会員企業の知見から、上記リスクが存在する現場事例を紹介し、危険ポイント、原因、対策方法を図解入りで簡潔にまとめている。全20の事例をホームページに掲載した。



事例に学ぶ塗装現場の安全性

[13] 安全柵の外にいたが破損部品が飛んできて怪我

具体例

- ロボット塗装において、塗装仕上がりを確認しようと安全柵の外から覗いていた
- 異なる動作プログラムで動作させてしまい、ワークと接触しロボットは緊急停止した
- 塗装機とワークの接触により破片が飛び取り、安全柵の隙間を抜けて顔にあたり切創

経 緯

安全柵の外にいるからと安心し、破片が飛んでくるなど想像もしていなかった。

原 因

- 安全柵はロボットの動作範囲に入らないように設置されたものであった
- ベル型塗装機を使用しており、高速回転するベルカップが接触した事で破損に至った
- 安全柵のメッシュが粗く、その隙間を抜けてきた事で怪我に至った

対 策

- 目的に合わせた安全柵を選定する
- 目視確認が必要な場合は、想定される破片などが通過できないメッシュや安全柵を使用する
- ISO12100(JIS B 9700)に基づき、リスクアセスメントを実施し保護方策を実施する

CEMA ホームページ「安全事例集」

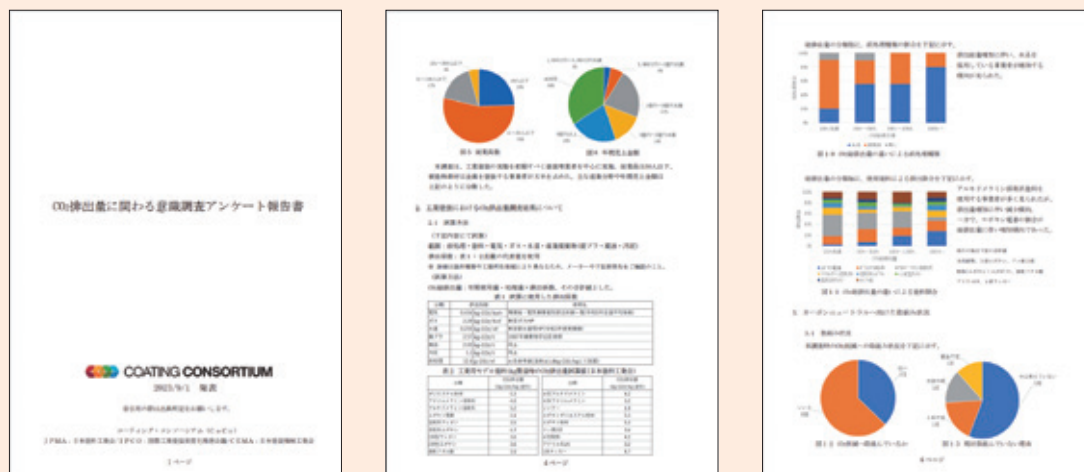
2023年 CO₂排出量アンケート実施

2022年塗料・塗装関連団体協力し、コーティング・コンソーシアム（略称：CoCo）が発足した。

CEMA も技術委員会が中心に参画し、業界の課題に関して討議を実施した結果、今後予測される、LCA や CFP の対応に向け、工業塗装における現状値を把握するため、CO₂排出量に関する取組状況・意識調査を行った。



COATING CONSORTIUM



CO₂排出量に関わる意識調査アンケート報告書（CoCo）

出版「CO₂排出削減ガイドンスブック」

シンポジウム委員会

CEMA 技術シンポジウムの歴史を振り返ると、その第1回は1997年3月5日・6日の2日間にわたり盛大に開催された。今あらためて当時の記録を見ても驚かされるのは、その圧倒的な集客力である。2日間で延べ450名を超える参加者が集まり、現在のシンポジウムが100～150名規模であることを考えると、当時の活況ぶりが際立っている。

第1回から第4回までは隔年開催で、第2回（1999年）も定員を上回る440名が来場した。第3回（2001年）以降は来場者数の記録が残っていないものの、当時の会場写真からは、現在と同程度の規模へと落ち着いていった様子がうかがえる。

第1回開催時の盛況ぶりは、関係企業やユーザーが業界の最新情報を強く求めていた時代背景を反映しているのだろう。それだけ CEMA の取り組みが先進的であり、業界を牽引する存在であったことがうかがえる。

第4回は2003年に開催され、翌 2004年の第5回からは1日開催へと形式を改め、以降は毎年の恒例行事として定着している。

第15回は第7代木下会長の方針で、東京、大阪の同時開催となり、大阪会場はサテライト会場として中継上映された。質疑応答も両会場から受け付け、まだ WEB 会議の無い時代に先進で画期的な取り組みであった。当時は、設備機材が十分でなく実現しなかったが、札幌、名古屋、福岡などサテライト会場を増やす構想まで夢見ていた。東京、大阪同時開催はその後第17回まで続いた。



第1回初日、熱気に満ちた会場



第2回、熱心に聴講する参加者



第3回以降の会場となる
日本ペイント東京センタービル

第1回	ユーザーから見た塗装課題の解決に挑戦	1997.3.5～6	インテックス大阪国際会議場
第2回	塗装の環境を考える	1999.5.27～28	東京ビッグサイト・東京ファッションビル
第3回	地球環境に対応する塗装技術	2001.5.23～24	日本ペイント（株）東京センタービル
第4回	生き残りをかける塗装技術	2003.6.26～27	日本ペイント（株）東京センタービル
第5回	VOC規制とその対応	2004.11.25	日本ペイント（株）東京センタービル
第6回	よくわかる VOC規制と取り組み	2005.7.8	日本ペイント（株）東京センタービル
第7回	世界の最新塗装技術情報（自動車・工業塗装）	2006.10.27	日本ペイント（株）東京センタービル
第8回	生長著しい中国塗装業界の実情	2007.10.26	日本ペイント（株）東京センタービル
第9回	VOC削減の現状と対応	2008.10.24	日本ペイント（株）東京センタービル
第10回	環境負荷低減と塗料コスト低減の同時解決技術	2009.10.23	日本ペイント（株）東京センタービル
第11回	VOC削減・CO ₂ 削減の最新情報と最新技術	2010.10.21	日本ペイント（株）東京センタービル
第12回	VOC・CO ₂ 削減の最新技術	2011.10.21	日本ペイント（株）東京センタービル
第13回	塗装の明日を切り拓く最先端技術と最新情報	2012.10.26	日本ペイント（株）東京センタービル
第14回	日本再生と成長のキーワード：塗装技術	2013.10.25	日本ペイント（株）東京センタービル
第15回	新時代を切り拓く高機能塗装・塗料の最前線	2014.10.23	塗料会館・大阪塗料ビル
第16回	湧き上がる塗装ワールドの技術革新	2015.10.23	塗料会館・大阪塗料ビル

第17回 コスト低減に直結する塗装技術・環境技術

東京、大阪2016.10.28

- | | | |
|---------------------------|------------------|-------|
| 1.工業塗装を取り巻く法規制の最新情報と動向 | CEMA技術部会 | |
| 2.乾燥炉の排熱回収システム | (株)桂精機製作所 | 大塚 竜一 |
| 3.マイクロバブルによるVOC処理 | ランズバーグインダストリー(株) | 片山 真司 |
| 4.ジルコニウム化成被膜処理 | 日本シー・ビー・ケミカル(株) | 小林 利紀 |
| 5.炭酸ハイブリッド塗装システム | 長瀬産業(株) | 成田 昇 |
| 6.材料効率95%以上の超音波塗装技術 | リテックジャパン(株) | 林 俊夫 |
| 7.泡式塗装ブース | (有)田辺塗工所 | 田辺 直 |
| 8.ラベルを利用した生産工程の管理 | (株)小泉塗装工業所 | 小泉 雄一 |
| | (株)サトー | 白石 公郎 |
| 9.粉体塗装における塗着効率と作業性の向上について | 旭サナック(株) | 山崎 諭志 |
| 10.三次元塗装シミュレーター | アネスト岩田(株) | 樋川 浩一 |

省エネ・環境対応を軸に、排熱回収や VOC 処理、化成処理、材料効率向上など実践的な最新技術を幅広く紹介。生産管理やシミュレーションまで含め、コスト低減に直結する多角的な提案が集まった回。



大阪会場の様子



東京会場の様子

第18回 “分かりやすい” 塗装の自動化・環境対策・技術革新の最新情報

東京2017.10.20, 大阪2017.11.14

- | | | |
|---------------------------|--------------------|-------|
| 1. 日本・中国における塗装県境規制と取り組み | CEMA技術部会 | 平野 克己 |
| 2. 塗装のゼロエミッション化 | CEMA Automotive協議会 | 片山 真司 |
| 3.「熱を出さない工場」への技術的対策 | 東京電力エナジーパートナー(株) | 原田 光朗 |
| 4. 最小設備構成による効率的な自動化塗装 | (株)大気社 | 石田 浩三 |
| 5. ロボットビジョンシステムの最新技術紹介 | 川崎重工業(株) | 小島 一彦 |
| 6. IoTを活用した塗装ラインの実例 | (株)小泉塗装工業所 | 小泉 雄一 |
| 7. 回転塗装に特化した小型自動ガンWRA-M50 | アネスト岩田(株) | 近松 聡 |
| 8. RansFlexシリーズ静電ガンを紹介 | CFTランズバーグ(株) | 鹿丸 秀俊 |
| 9. 大吐出量対応ハンドガンの特徴と適応事例 | 旭サナック(株) | 白松憲一郎 |
| 10. 最新工業塗料情報 | 塗料・塗装技術研究所 | 奴間 伸茂 |

この回から東京、大阪の二会場で、同一プログラムによる二日程開催となった。環境規制やゼロエミッション化の動向を軸に、自動化技術、ロボットビジョン、IoT 活用など最新の塗装技術を多角的に紹介。“分かりやすさ”を重視し、実務に直結する情報が集約された回。



大阪会場の様子



東京会場の様子

第19回 明日から使える塗装ラインの省エネ方法と塗装ロボット

東京2018.10.20, 大阪2018.11.21

- | | | |
|---------------------------|----------------|-------|
| 1. 工場での排熱・未利用熱の利用について | MDI(株) | 岩澤 賢治 |
| 2. 当社の塗装管理技術と省エネ大賞技術 | (株)エヌエスオカムラ | 新沼 伸一 |
| 3.国際会議に見る自動車塗装技術最新動向 | (株)アースクリンテクノ | 田村 吉宣 |
| 4.回転塗装ロボットの自動ティーチングに向けた開発 | タクボエンジニアリング(株) | 小島 光 |
| 5.次世代ロボット教示システムの紹介 | 旭サナック(株) | 加藤 雅宏 |
| 6.未来の工場、未来の塗装 | ABB(株) | 中島秀一郎 |

排熱利用や省エネ技術を中心に、自動車塗装の最新動向、ロボットの自動ティーチングや次世代教示システムなど、塗装ラインの効率化と高度化を実践的に示した回。



大阪会場の様子

第20回 塗料・塗装の利益を生み出す最新技術

東京2019.10.16, 大阪2019.11.15

- | | | |
|--|----------------|-------|
| 1. 大変革の時代に求められる価値を創造する塗装技術とは | 塗料塗装技術研究所 | 奴間 伸茂 |
| 2. 塗装工場から排出される産業廃棄物の正しい分別 | CEMA広報委員 | 内山 貴織 |
| 3. 廃熱を利用した環境対策(水蒸気による発電) | アネスト岩田(株) | 和泉 孝明 |
| 4. 乾燥時間を半分に短縮し、CO ₂ を削減する高圧熱風乾燥炉 | (有)シーティーカハタ | 高畑 和幸 |
| 5. アルカリ電解水を用いた塗料スラッジの改質効果 | (株)ヲサメ工業 | 中村 芳生 |
| 6. IoT・AI技術利用による「遠隔地塗装工場の管理技報と塗装熟練技術の伝承方法」 | (株)ヒバラコーポレーション | 小田倉久視 |
| 7. 粉体塗装プロセスの自動化に貢献する「3D形状認識粉体塗装システム」 | 旭サナック(株) | 柳田 建三 |
| 8. 溶剤・高粘度液体の非接触塗布を可能とするジェットイング(Dot Jet Liner)方式の紹介 | タクボエンジニアリング(株) | 上村 一之 |

環境対応や省エネ技術を中心に、廃熱発電、高圧熱風乾燥、産廃分別、AI・IoTによる遠隔管理や技能継承、3D認識による粉体塗装自動化など、多様な最新技術を紹介した回。

2020年、未曾有の新型コロナウイルスが世界を襲い、
技術シンポジウム創設以来初めて開催を断念することとなった。
業界にとっても大きな節目となる一年であった。

第21回 SDGs に向かう塗装の自動化と環境対策

アネスト岩田スタジオから WEB 配信 2021.10.21

- | | | |
|------------------------------|------------------|-------|
| 1. カーボンニュートラルに向けた取組 | 経済産業省・関東経済産業局 | 窪木 健二 |
| 2. 超高塗着エアレス塗装システムの開発 | トヨタ自動車(株) | 谷 真二 |
| 3. 熱を出さない工場の省エネ対策 | 東京電力エナジーパートナー(株) | 原田 光朗 |
| 4. 環境対応、自動化に向けての大気社ユニーク技術の紹介 | (株)大気社 | 林 慶一 |
| 5. 塗装プロセスにおける環境ソリューション | 栗田工業(株) | 斎藤 梨絵 |
| 6. 塗装ロボットシステムの最新技術動向 | ABB(株) | 宮嶋 貴博 |



しながらニュースキャスターの
様な座長と講師は後の運営企画
委員長とシンポジウム委員長

本回は、感染症対策として初めてのウェビナー形式を採用し、当時アネスト岩田に新設されたスタジオから配信された。カーボンニュートラルへの行政動向から、超高塗着ベル、環境対応型プロセス、省エネ対策、最新ロボットシステムまで幅広く紹介。塗装ラインの生産性向上と環境対応を両立する実践的な技術が集結した。

第22回 塗料・塗装の SDGs とカーボンニュートラルへの革新技术

2022.10.20

- | | | |
|--|----------------|------------|
| 1. カーボンニュートラルへの塗装の対策 | 日本塗装機械工業会 | 平野 克己 |
| 2. 一般工業製品の塗装仕様と今後の塗装動向 | 日本工業塗装協同組合連合会 | 鈴木 譲 |
| 3. IoTシステム「OLDAS」と塗装現場への導入課題 | オーウエル(株) | 青柳 賢司 |
| 4. 塗料調合のジャストインタイムに貢献する自動希釈装置 | 旭サナック(株) | 瀬田 博 |
| 5. マスクレスを目的としたジェットイングシステムによる部分塗布の実態とその効果 | タクボエンジニアリング(株) | 上村 一之 |
| 6. 塗装乾燥炉における水素バーナーの開発 | (株)ヒートエナジーテック | 新山 修、藤田 淳一 |
| 7. 塗装用乾燥炉のナオス・サゲル・トメルによるCO ₂ 削減 | トヨタ自動車(株) | 滝嶋 開 |

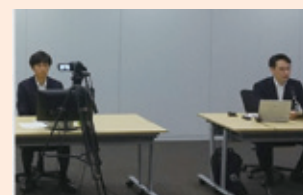


SDGs とカーボンニュートラルを主題に、塗装の環境対策や今後の動向、IoT 導入、自動化、水素バーナーなど多様な革新技术を紹介した回である。また、平野前専務理事が最後に登壇された場でもあり、その長年の貢献を多くの参加者が胸に刻む機会となった。

第23回 カーボンニュートラルと人材減少社会への対応

2023.10.19

1. GX (Green Transformation) への対応 東京電力エナジーパートナー(株) 原田 光朗
「2050年カーボンニュートラルの柱は電化・水素化」
2. カーボンニュートラルに貢献する安川インバータ＆モーターの取組み
安川電機(株) 山崎 翔太
3. 超高塗着エアレス塗装を基点としたCO₂削減自動車塗装システム開発
トヨタ自動車(株) 尾関 弘修
4. ファナックロボットによるSDGs/サステナビリティへの取組
ファナック(株) 管野 一郎
5. 未来に向けた箱型ワークの粉体塗装システム 旭サナック(株) 梅田 陽平
6. 「インジウムミラー塗装システム」のご紹介 塗装による鏡面塗膜の実現
タクボエンジニアリング(株) 布施 昌純

ベテランとなった
総合司会と座長

カーボンニュートラルと人材減少への対応を軸に、電化・水素化のGX動向、インバータ技術、超高塗着塗装、ロボット活用、粉体塗装の進化、鏡面塗膜技術など、多様な最新ソリューションを紹介した回。

第24回 CO₂削減と人材減少社会への挑戦

2024.10.18

1. 人手不足環境下における持続的塗装工場運営手法
(株)ヒバラコーポレーション 小田倉久視
2. 塗料供給ポンプの電動化 アネスト岩田(株) 須藤 将伍
3. 持続可能な未来を築くためのトヨタの取り組み トヨタ自動車(株) 加藤 大雄
4. 塗装機器並びに付帯機器による徹底した廃棄塗料の削減
CFTランズバーク(株) 石橋 省吉
5. 塗装ブースのCO₂削減に向けた革新技術 (株)大気社 赤荻 隆斗
6. カーボンニュートラル化に貢献する塗装機の紹介 ABB(株) 寺田 勝



ウェビナー配信準備

人手不足とCO₂削減を軸に、持続的工場運営、ポンプ電動化、廃棄塗料削減、塗装ブースの省エネ、カーボンニュートラル対応機器など、多角的な最新技術を紹介した回。

第25回 未来に向けて今、塗装技術で起こっているイノベーションをお伝えします

2025.10.15

1. e-methaneで実現するCN社会 東京ガス(株) 家中 進造
2. あらゆる表面をカガクで変える～持続可能な社会の実現のために 日本パーカラライジング(株) 福岡 慶久
3. 自動車塗装CN研究会の取り組み (株)SUBARU 矢野健太郎
4. CNへの取組み～塗装乾燥炉への水素ガスバーナー導入事例と今後の課題～
(株)ヒートエナジーテック 加藤 聡根
5. 脱炭素社会に貢献する粉体塗装技術～塗着効率100%を目指して～ 旭サナック(株) 加藤 啓太
6. MOTOFEEDER TILTコンセプトと協調塗装 (株)安川電機 吉野 勝彦

e-メタンによるCN社会の実現、表面処理技術、塗装CN研究会の取組み、水素バーナー導入、粉体塗装の高効率化、協調塗装など、未来志向の革新技術を多角的に紹介した回。



講師と座長



終了後の懇親会

技術シンポジウムが刻んだ 29年の軌跡と未来への展望

参加者に選ばれる シンポジウムを目指して

シンポジウム委員長
林 慶一



私が講師として初めて登壇した2021年は、ちょうどシンポジウムがWEB配信方式へ移行した年でした。その後、座長、そして2025年に委員長を務めるまでオンライン開催が続き、視聴者アンケートでもオンラインを望む声が多く寄せられています。場所に縛られず、忙しい日々の中でも興味のある講演を選んで視聴できる点は、視聴者層の拡大にもつながっていると感じています。一方で、WEB上には多くの情報が溢れる中で、参加者の皆さまに「このシンポジウムから情報を得たい」と思っていただけの存在であることが、リアル開催以上に重要になっていると考えています。そのためには、本シンポジウムでしか聞けない情報や独自の構成が不可欠です。Q&Aはその価値を引き出す場ですが、オンラインでは質問が出にくい面もあり、今後は質問を促す工夫が求められると感じています。これまでのテーマの変遷を見ると、VOC削減の比重が小さくなり、現在はCO₂削減、少人化・自動化、デジタル化が主軸となっています。今後もこれらを中心に、最新情報や各社の取り組み事例を深めながら、オンライン開催の特長を活かした内容へと進化させていきたいと思っています。委員会メンバーの結束力を力に、多様なアイデアを出し合いながら、「ここから情報を得たい」と思っていただけの場をつくり続けていく所存です。

リアル開催から オンライン開催へ

シンポジウム副委員長
片山 眞司



2020年、コロナ禍によりシンポジウムが初めて開催中止となったことは、19年の歴史の中でも痛恨の出来事でした。その後は感染防止の観点からオンライン開催へ移行し、5年連続で無事に実施できたのは、ひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。

団塊世代の私としては、リアル開催ならではの良さ——講演者や参加者と直接会話し、質疑応答や意見交換を通じて新たな人脈を築ける貴重な場——が忘れられません。しかし、聴講者アンケートではオンライン支持が圧倒的であり、リアル開催へ戻すことは容易ではないと感じています。その一方で、オンラインにリアルの良さを取り入れる工夫は今後も続けていきたいと考えています。

成功裡に開催を重ねてきたとはいえ、「Q&Aが低調である」という課題は残っています。チャットや音声での質問が十分に機能しなかったことを踏まえ、講師の皆様にはご負担をおかけしますが、メールやSNSを活用したQ&Aの仕組みも検討すべきと考えています。

CEMAはこれからも、皆様が実践的な情報やヒントを得られる場であり続けるため、業界内外の最新情報を収集し、講演テーマと講師選定を最重視して取り組んでまいります。



広報委員会

情報の絆を深め、次なる歩みへ CEMA ホームページは、2001年の開設以来、情報の迅速化と省力化を支える大切な基盤として歩みを共にしてきました。2013年の全面リニューアルでは、会員の皆様が直接情報を発信できる環境を整えたことで、運営の効率化だけでなく、活発な交流の場としてアクセス数も着実に伸びてまいりました。この10年においては、より使いやすいサイトを目指してサイトマップの再構築を行い、知りたい情報へスムーズにたどり着けるよう改善を重ねてきました。業界の知識を共有する「用語集」や、現場の安心を支える「安全事例集」の公開、さらには統計投票やシンポジウム応募といった会員専用ページの機能拡充により、日々の業務における利便性も大きく向上しています。私たちが大切にしてきたのは、「価値ある情報を絶えずお届けし続けること」です。これまでの活動を通じて培われた会員同士のつながりを糧に、これからも時代の変化に寄り添いながら、皆様と共に塗装業界の明るい未来を支える情報発信の場を育んでいきたいと考えております。

CEMA トップページの変遷

2001/8 ~ 2002/11



2002/12 ~ 2013/9



2013/10 ~ 2022/10



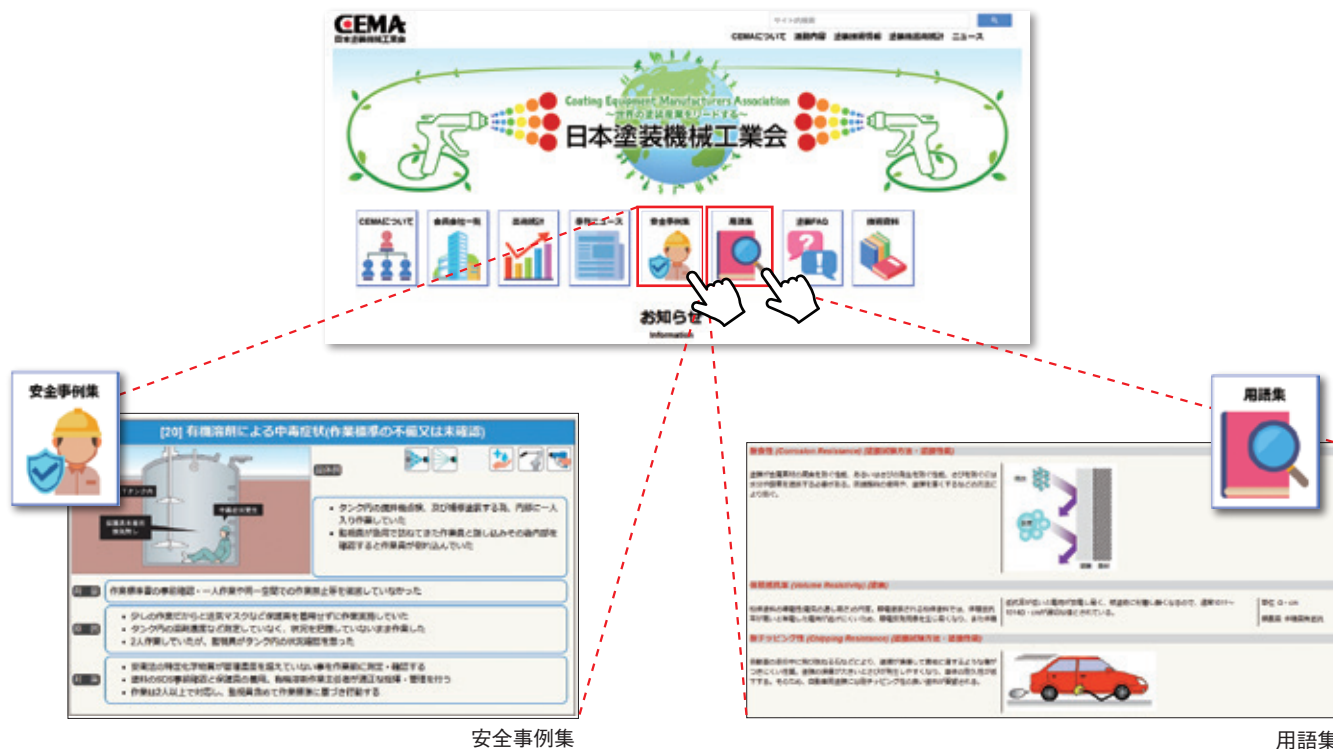
2022/11 ~ 2026/6 現在に至る



見やすくなったホームページ（トップページ）

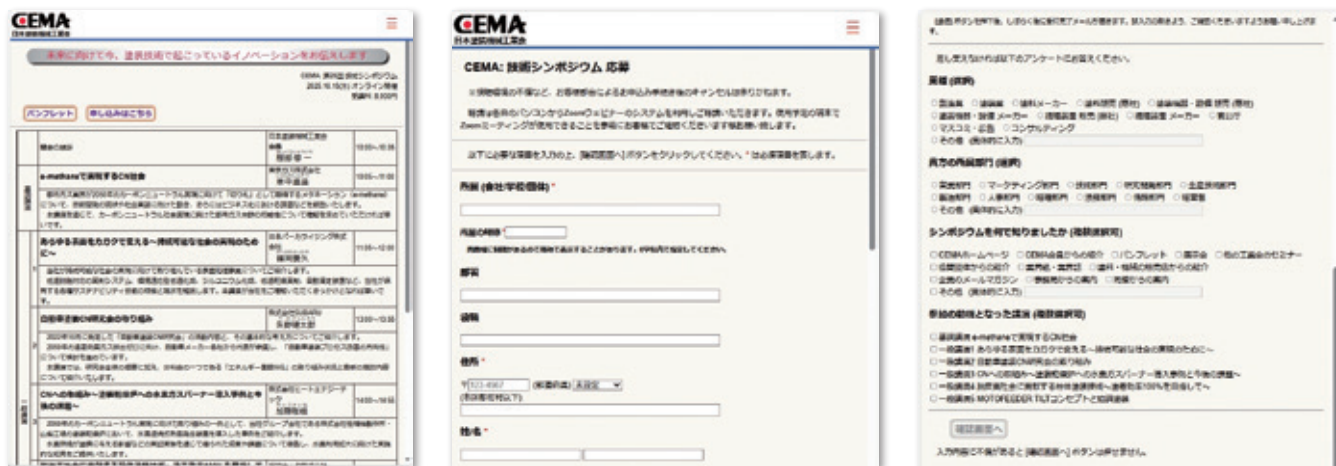
ホームページの新機能

トップページから「安全事例集」「用語集」「シンポジウム」のページに簡単にアクセスできるよう改善



1997年に始まったCEMAの恒例行事「技術シンポジウム」は、長らく郵送・FAX・メールによる申込受付が続けてきました。参加者にとっては手書き・送付の手間がかかり、事務局にとってもリスト作成・管理に多くの時間を要していました。

2021年、感染症対策によるオンライン開催を契機に、公開ホームページから参加申込みができる仕組みを導入。応募期間中はトップページに専用アイコンを表示し、講演スケジュールや要旨を確認したうえで、そのまま申込みまで完結できるようになりました。さらに、申込み時のアンケートにより参加者の声を収集し、次回企画の検討にも活用しています。今後も、より使いやすく発展的な仕組みへと改善を続けてまいります。



新春座談会

業界誌「塗装技術」による恒例の「新春座談会」は、半世紀以上にわたり続く業界の重要な対話の場である。新年の幕開けにあたり、関係企業や団体の代表者が一堂に会し、その年の業界動向や課題、将来展望を語り合うこの企画は、長年にわたり業界関係者の関心を集めてきた。

CEMAがこの座談会に継続的に参加するようになったのは、世の中がミレニアムに沸いた2000年からである。それ以前にも関係者が個別に参加することはあったが、この年以降は工業会としてレギュラー参加する形となり、以来、業界の一員として議論に加わってきた。なお、この前年である1999年の出席者には、当工業会現会長の服部修一氏、第4代会長の佐々木栄治氏、第8代会長の壺田貴弘氏の名前が連なっており、今日につながる顔ぶれが見られることにあらためて感慨を覚える。

座談会のテーマは毎年記録されており、それらを振り返ると、時代ごとの業界の関心や課題が浮かび上がる。設備投資の動向や技術革新、環境対応、グローバル化など、取り上げられる話題はその時代の社会情勢とも密接に関わっており、座談会は単なる意見交換の場にとどまらず、業界の歩みを映し出す貴重な記録ともなっている。

この座談会において、とりわけ大きな役割を果たされたのが、当工業会の故・前専務理事 平野克己氏である。2000年、運営企画委員長として参加されたのを皮切りに、2004年の専務理事就任後も連続して毎年出席を続けられた。その後、2006年に座談会の司会を任されるようになり、2023年まで長年にわたり進行役を務められた。CEMAはこれまで21世紀ビジョンを掲げて活動してきたが、その歩みはまさに21世紀の始まりと重なり、同氏がCEMAの活動を牽引してこられたと言っても過言ではない。

多くの関係者が参加する座談会において、議論を円滑に進める司会の役割は極めて重要である。平野前専務理事は豊富な業界知識と経験をもとに、参加者それぞれの意見を丁寧に取り出しながら議論をまとめ、座談会を実りあるものへと導いてこられた。その落ち着いた進行は関係者からも高く評価され、長年にわたり座談会を支える存在となっていた。

新春座談会は、単に一年の展望を語る場にとどまらず、業界関係者が相互理解を深め、将来を展望する貴重な機会でもある。当工業会がこの場に参加し続けてきたことは、業界の発展とともに考えてきた歩みでもある。

創立50周年という節目にあたり、これまでの座談会の記録を振り返るとともに、長年その運営に尽力された関係者の功績に改めて敬意を表したい。そして今後もこの対話の場が、業界の未来を語る重要な機会として続いていくことを期待したい。



座談会が掲載された「塗装技術」誌

CEMA 新春座談会リスト

() は当時の所属及び役職

1999年 テーマ 「今、塗装機器・設備の需要展開に何をなすべきか」

出席者 司会: 小柳行正 (塗装技術誌主宰) / 加藤頼弘 (パーカー・アレスター(株) 取締役営業本部長) / 佐々木栄治 (タクボエンジニアリング(株) 代表取締役社長) / 壺田貴弘 (アネスト岩田(株) コーティングマーケティング部自動システム課課長) / 服部修一 (旭サナック(株) 東京支店次長) / 服部令男 (株サービスエース 専務取締役)

2000年 テーマ 「工業会のブレン、新世紀を大いに語る」

出席者 司会: 小柳行正 (塗装技術誌主宰) / 甘利祐三 (CEMA 会長/旭サナック(株) 代表取締役会長) / 佐々木栄治 (CEMA 副会長/タクボエンジニアリング(株) 代表取締役社長) / 平野克己 (CEMA 運営企画委員長/日本ペイントプラント・エンジニアリング(株) 取締役技術部長) / 森田信義 (CEMA 製機委員長/アネスト岩田(株) / 栗野 光 (CEMA 技術部会長/旭サナック(株) / 早川輝一 (CEMA 事務局長/旭サナック(株))

2001年 テーマ 「工業会の21世紀の方向性と課題」

出席者 司会: 小柳行正 (塗装技術誌主宰) / 佐々木栄治 (CEMA 会長/タクボエンジニアリング(株) 代表取締役社長) / 小林 茂 (CEMA 副会長/ノードソン(株) 代表取締役社長) / 里見多一 (CEMA 副会長/日本パーカライジング(株) 常務取締役) / 平野克己 (CEMA 運営企画委員長/日本ペイントプラント・エンジニアリング(株) 取締役技術部長)

2002年 テーマ 「情報化時代を迎えて 工業会1年の歩みを検証する」

出席者 司会: 小柳行正 (塗装技術誌主宰) / 佐々木栄治 (CEMA 会長/タクボエンジニアリング(株) 代表取締役社長) / 小林 茂 (CEMA 副会長/ノードソン(株) 代表取締役社長) / 里見多一 (CEMA 副会長/日本パーカライジング(株) 常務取締役) / 平野克己 (CEMA 運営企画委員長/日本ペイント(株) 塗装技術グループマネージャー)

2003年 テーマ 「デフレ経済下における工業会の課題と新年展望」

出席者 司会: 小柳行正 (塗装技術誌主宰) / 佐々木栄治 (CEMA 会長/タクボエンジニアリング(株) 代表取締役社長) / 小林 茂 (CEMA 副会長/ノードソン(株) 代表取締役社長) / 木下真生 (CEMA 国際部会長/ランズバーク・インダストリー(株) 代表取締役社長) / 平野克己 (CEMA 運営企画委員長/日本ペイント(株) 塗装技術グループマネージャー) / 横幕浩明 (CEMA 技術部会長/旭サナック(株) 塗装技術センター所長)

2004年 テーマ 「工業会は業界活性化のために何をなすべきか」

出席者 司会: 小柳行正 (塗装技術誌主宰) / 佐々木栄治 (CEMA 会長/タクボエンジニアリング(株) 代表取締役社長) / 小林 茂 (CEMA 副会長/ノードソン(株) 代表取締役社長) / 木下真生 (CEMA 国際部会長/ランズバーク・インダストリー(株) 代表取締役社長) / 平野克己 (CEMA 運営企画委員長/日本ペイント(株) 販売本部・担当部長)

2005年 テーマ 「一步前進—新しいブレンの課題は何か」

出席者 司会: 小柳行正 (塗装技術誌主宰) / 小林 茂 (CEMA 会長/ノードソン(株) 代表取締役社長) / 里見多一 (CEMA 副会長/日本パーカライジング(株) 専務取締役) / 菅原一雄 (CEMA 副会長/アネスト岩田(株) 塗装機事業・市場開発担当部長) / 平野克己 (CEMA 専務理事/日本ペイント(株) 販売本部・担当部長)

2006年 テーマ 「工業塗装における塗装技術の近未来を展望する」

出席者 司会: 平野克己 (CEMA 専務理事) / 江口 伸 (ノードソン(株) パウダーグループ副事業部長理学博士) / 亀原信和 (アネスト岩田(株) 塗装機部工業塗装グループマネージャー) / 藤井良昭 (旭サナック(株) 塗装機械事業部塗装技術センター長) / 渡部隆郁 (パーカーエンジニアリング(株) 技術部開発課担当課長)

2007年 テーマ 「グローバル時代のキーワードを占う」

出席者 司会: 平野克己 (CEMA 専務理事) / 小林 茂 (CEMA 会長/ノードソン(株) 代表取締役社長) / 里見多一 (CEMA 副会長/日本パーカライジング(株) 代表取締役副社長) / 菅原一雄 (CEMA 副会長/アネスト岩田(株) 塗装機事業・市場開発担当部長) / 楯 恒夫 (コーテック(株) 代表取締役)

2008年 テーマ 「工業塗装の顧客満足度を高めるための要件」

出席者 司会: 平野克己 (CEMA 専務理事) / 斎藤隆久 (ランズバーク・インダストリー(株) ランズバークディビジョン 技術グループシニアグループリーダー) / 島田哲也 (旭サナック(株) 塗装機械事業部ユニット技術室専任課長) / 武田克己 (アネスト岩田(株) 塗装機部工業塗装グループマネージャー) / 木下稔夫 (地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター 研究開発部デザイングループ主任研究員(塗装技術)) / 窪井 要 (南久保井塗装工業所 代表取締役(兼)品質部・営業部部長)

2009年 テーマ 「新時代を切り開く工業塗装の技術革新を展望する」

出席者 司会: 平野克己 (CEMA 専務理事) / 大澤健一 (アネスト岩田(株) 塗装機部 システムエンジニアリンググループ マネージャー) / 島田隆治 (ノードソン(株) インダストリアルコーティング リキッドグループ 副事業部長) / 竹下直孝 (旭サナック(株) 理事塗装機械事業部技術部長) / 田村吉宣 (いすゞ自動車(株) 車両技術部塗装技術グループシニアスペシャリスト)

2010年 テーマ 「工業塗装の将来展望—環境・品質・利益—を考える」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／内山貴識（東和酵素㈱ 営業技術部部长）／小林 茂（CEMA 会長 ノードソン㈱ 代表取締役社長）／佐々木栄治（タクボエンジニアリング㈱ 代表取締役）／高橋 正（㈱トップ工業 代表取締役）／三輪 宏（日本ペイント㈱ 工業用塗料事業本部副事業本部長）

2011年 テーマ 「塗料・塗装機械のトップが語る工業塗装の近未来」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／里見多一（CEMA 会長／日本バーカライジング㈱ 代表取締役副社長技術本部長）／甘利昌彦（CEMA 副会長／旭サナック㈱ 代表取締役社長工学博士）／壺田貴弘（CEMA 副会長／アネスト岩田㈱ 代表取締役社長）／木下真生（CEMA 副会長／ランズバーグ・インダストリー㈱ 代表取締役社長）／久米政文（㈱日本塗料工業会 専務理事）

2012年 テーマ 「工業塗装の技術革新を目指して」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／島田哲也（旭サナック㈱ 塗装機械事業部ユニット技術第1課課長）／杉山博英（アネスト岩田㈱ 塗装機器露化技術グループマネージャー）／内山貴識（東和酵素㈱ 営業技術部部长）／窪井 要（㈱久保井塗装工業所 代表取締役（兼）品質部・営業部部长）／小林 悟（独立行政法人産業技術総合研究所 イノベーション推進本部 産学官連携推進部 産学・地域連携室 産業技術指導員 工学博士）

2013年 テーマ 「塗装のイメージ, 社会的認知度を向上させるために何が必要か？」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／内山貴識（工業塗装高度化協議会／東和酵素㈱ 営業技術部部长）／木下真生（CEMA 会長／ランズバーグ・インダストリー㈱ 代表取締役社長）／奴間伸茂（㈱日本塗料工業会 常務理事）／山崎秀雄（日本工業塗装協同組合連合会会長／㈱山崎塗装工業 代表取締役社長）／渡邊忠彦（日本パウダーコーティング協同組合理事長／城南コーテック㈱ 代表取締役社長）

2014年 テーマ 「工業塗装発展への挑戦！」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／内山貴識（CEMA ものづくり協議会会長／東和酵素㈱ 営業技術部部长）／片山眞司（J&S エンジニアリング㈱ 代表取締役社長）／木下稔夫（（地独）東京都立産業技術研究センター 開発本部開発第二部表面技術グループ）／木下真生（CEMA 会長／ランズバーグ・インダストリー㈱ 代表取締役社長）／窪井 要（㈱久保井塗装工業所 代表取締役（兼）品質部・営業部部长）／高橋 大（㈱山王 代表取締役）

2015年 テーマ 「工業塗装発展への真の課題と将来展望を語る」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／内山貴識（CEMA ものづくり協議会会長／東和酵素㈱ 営業技術部部长）／岡田久佳（CEMA ものづくり協議会副会長／㈱岡久 専務取締役）／木下真生（CEMA 会長／ランズバーグ・インダストリー㈱ 代表取締役社長）／佐々木栄治（CEMA 顧問理事／タクボエンジニアリング㈱ 代表取締役）／三好栄祐（CEMA 運営企画副委員長／アネスト岩田コーティングソリューションズ㈱ 代表取締役社長）／山崎諭志（CEMA 技術部会長／旭サナック㈱ 塗装機械事業部技術開発部ユニット技術課専任課長）

2016年 テーマ 「CEMA40年の発展経緯と今後の工業塗装を展望する」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／内山貴識（東和酵素㈱ 営業技術部部长）／木下真生（ランズバーグ・インダストリー㈱ 代表取締役社長）／佐々木栄治（タクボエンジニアリング㈱ 代表取締役）／武田克己（アネスト岩田㈱ 塗装機械事業部コーティングシステム部部长）／服部修一（旭サナック㈱ 取締役塗装機械事業部部长）／福田浩二（㈱明治機械製作所 取締役岡山工場長）

2017年 テーマ 「21世紀ビジョンの理念で工業塗装の変革に挑戦」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／壺田貴弘（CEMA 会長／アネスト岩田㈱ 代表取締役 社長執行役員）／三好栄祐（アネスト岩田㈱ 執行役員／アネスト岩田コーティングソリューションズ㈱ 代表取締役社長）／山崎諭志（旭サナック㈱ 塗装機械事業部営業技術部システム1課課長）／山西和弘（パーカーエンジニアリング㈱ 経営企画室）／吉野和彦（㈱明治機械製作所 岡山工場ゼロ事業 主任）



2019年新春座談会の様子

2018年 テーマ 「女性の力で塗装業界の革新と信頼性の向上を！」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／魚谷英未（東和酵素㈱ 営業技術部長）／谷 紀子（日本ワグナー・スプレーテック㈱ マーケティング）／
橋口茉莉（アネスト岩田㈱ 液圧機器部液圧マーケティングチーム）／三好栄祐（アネスト岩田㈱ 執行役員／アネスト岩田コーティングソリューションズ㈱ 代表取締役社長）

2019年 テーマ 「塗装変革の時代に対応した再挑戦」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／内山貴識（東和酵素㈱ 営業技術部長）／佐々木栄治（タクボエンジニアリング㈱ 代表取締役）／
里見康夫（パーカーエンジニアリング㈱ 代表取締役社長）／多田洋一（㈱ワサメ工業 代表取締役社長）／服部修一（旭サナック㈱ 常務取締役塗装機械事業部長）

2020年 テーマ 「2020年代の CEMA と塗装業界の発展」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／岩田 一（CEMA 会長／アネスト岩田㈱ 取締役上席執行役員 コーティング事業部事業部長）／
内山貴識（CEMA 広報委員長／東和酵素㈱ 営業技術部長）／多田洋一（CEMA シンポジウム委員長（㈱ワサメ工業 代表取締役社長））／
服部修一（CEMA 技術委員長／旭サナック㈱ 常務取締役塗装機械事業部長）／宮島俊二（CEMA 副会長代理／パーカーエンジニアリング㈱ 常務取締役技術統括本部長資材部統括部長）

2021年 テーマ 「工業塗装は変革の時代へ…今後の展望を語る」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／青柳賢治（オーエル㈱ 事業企画部 エレクトロニクスマーケティンググループ専門部長）／
合田雅志（㈱明治機械製作所 岡山工場技術開発課 課長）／佐々木栄治（CEMA 顧問／タクボエンジニアリング㈱ 代表取締役社長）／
白松憲一郎（旭サナック㈱ 塗装機械事業部技術開発部ユニット技術課 課長）／武田克己（アネスト岩田㈱ コーティングシステム部長）

2022年 テーマ 「10年後の塗装業界を目指して」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／内山貴識（CEMA 副会長兼広報委員長／東和酵素㈱ 営業技術部長）／齊木信治（CEMA 統計調査委員長／㈱IEC 取締役）
／佐伯直泰（CEMA 会長／㈱明治機械製作所 代表取締役社長）／多田洋一（CEMA シンポジウム委員長／㈱ワサメ工業 代表取締役社長）／
服部修一（CEMA 副会長兼技術委員長／旭サナック㈱ 専務取締役塗装機械事業部長）

2023年 テーマ 「SDGs への塗装業界の取組～CEMA の塗装業界における使命～」

出席者 司会：平野克己（CEMA 専務理事）／佐伯直泰（CEMA 会長／㈱明治機械製作所 代表取締役社長）／服部修一（CEMA 副会長／旭サナック㈱ 専務取締役塗装機械事業部長）
／内山貴識（CEMA 副会長／東和酵素㈱ 営業技術部長）／足立真一（CEMA 副会長代理／パーカーエンジニアリング㈱ 執行役員東日本技術統括部長）

2024年 テーマ 「塗料・塗装産業の未来への創造～克服すべき課題、課題解決の手法、将来像～」

出席者 司会：内山貴識（CEMA 副会長／東和酵素㈱ 営業技術部長）／佐伯直泰（CEMA 会長／㈱明治機械製作所 代表取締役社長）／
里見康夫（CEMA 副会長／パーカーエンジニアリング㈱ 代表取締役社長）／白松憲一郎（CEMA 副会長代理／旭サナック㈱ 塗装機械事業部塗装技術開発部部長 兼 塗装技術センター長）
／多田洋一（CEMA 監事／㈱ワサメ工業 代表取締役社長）／清水慶司（(一社) 日本塗料工業会 普及広報部長）

2025年 テーマ 「カーボンニュートラルの約束～塗料・塗装の未来を次世代が語る～」

出席者 司会：樋川浩一（CEMA 専務理事）／加藤啓太（旭サナック㈱ 塗装機械事業部塗装技術システム開発課課長）／栗野愛梨（㈱企画商事 取締役）／
萩原和徳（㈱ヒートエナジーテック営業統括本部部長）／北山 歩（ファナック㈱ ロボット研究開発統括本部 ロボットアプリケーション技術本部 塗装・シーリング技術部一課課長）／
中村芳生（㈱ワサメ工業 東京事業部 営業部 課長）

2026年 テーマ 「CEMA 新体制始動～塗装業界の未来を切り拓く新たな取組～」

出席者 司会：樋川浩一（CEMA 専務理事）／服部修一（CEMA 会長／旭サナック㈱ 代表取締役社長）／三好栄祐（CEMA 副会長／アネスト岩田㈱ 代表取締役社長執行役員）／
佐伯直泰（CEMA 副会長／㈱明治機械製作所 取締役相談役）／多田洋一（CEMA 副会長（㈱ワサメ工業 代表取締役社長））



2026年新春座談会の様子

The background image shows the interior of a church. On the left, there are several tall, narrow stained glass windows with abstract designs in shades of yellow, orange, and brown. Above them are smaller, circular stained glass windows. To the right, a dark, ornate spiral staircase winds upwards. The overall lighting is warm and dramatic, with strong shadows.

CEMA50年の歩み

CEMA50年の歩み(1974年～2026年)

1974.4 工業会設立の萌芽と足固め

塗料報知新聞社主催の座談会にメーカー11社が出席し、業界団体設立の必要性を議論。これが準備期間の始まりとなり、約2年間にわたる調整を経て、工業会設立に向けた強固な土台が築かれた。



1976年8月24日 設立総会
岩田塗装機工業(株)本社会議室

1976.8 日本塗装機械工業会 (CEMA) の誕生

東京・恵比寿にて設立総会を開催。「塗装を通じた社会貢献」を志し、岩田塗装機工業(株)岩田社長、旭大隈産業(株)甘利社長、松尾産業(株)松尾社長が代表となり、19社の会員加入を得て、「日本塗装機械工業会」が始動した。初代会長に岩田塗装機工業(株)岩田社長が選出された。事務局を塗料報知新聞社内に設置した。



1977年 第1回年次総会 名鉄犬山ホテル

1976.10 英文名称を CEMA に決定

第1回理事会にて英文名称を CEMA に決定。
Coating Equipment Manufacturers Association, Japan
これにより国際的な呼称が定まり、塗装機械メーカーの代表者が集う専門団体としての体制が整った。



1981年6月 創立5周年記念パーティー
東京プリンスホテル

1981.6 創立5周年と自動化技術への注力

関係団体・報道機関をお招きし、創立5周年記念パーティーを開催。

当時オイルショック後の省エネ意識が高まる中、塗装ロボットの開発・導入が活発化し、塗装機械の自動化による生産性向上と作業環境の改善が業界全体の大きな技術的テーマとなっていた。



1982年 経済セミナー

1982 経済セミナー、塗料研修会継続開催

最近の自動車塗装の動向、自動車塗装の現状と今後の課題、建築塗装の現状と問題点、塗装工業の中期的展望などのセミナーや研修を開催。

1983 「塗着効率標準測定法」を作成

分科会活動にて「塗着効率標準測定法」を作成し、実用化を進めた。またスプレーガンの JIS 規格改定案を工業技術院に提出した。



1983年3法案
「自動塗装機の塗着効率標準測定法」
「手動塗装機の塗着効率標準測定法」
「塗料消費量の標準測定法」

国内 (日本)

1978年：成田国際空港開港
1978年：ピンク・レディーやインベーダーゲームが社会現象に
1983年：東京ディズニーランド開園
1983年：任天堂ファミコン発売

海外

1976年：Apple コンピュータ設立
1977年：スペースシャトル「エンタープライズ」公開
1978年：キャンプ・デービッド合意
1981年：スペースシャトル「コロンビア」初打ち上げ
1981年：通信の自由化
1981年：エイズ (AIDS) の発見

1985 協賛メンバーの加入促進

設備分科会の「報告会員制度」の趣旨に賛成して頂いた非会員設備メーカーに、協賛メンバーとして加入を呼びかけた。

1986 塗装設備出荷統計開始

設備分科会23社と協賛メンバー11社で設備出荷金額統計を実施した。

1987.1 関連団体との連携を開始

日本工業塗装協同組合連合会と初の懇談会を開催。
於：東洋ホテル

1987 合同技術部会 塗装用語集の編纂

「紛らわしい用語を明確にする塗装用語集」を取りまとめ小冊子を発行、カタログ表示の基準統一化に着手

1988.6 第12回年次総会

10年間にわたって会長職をつとめた CEMA の基礎づくりに尽力された岩田一也氏が退任。松尾一郎氏が会長職に就任。

1989 展示会への参画による広報活動推進

日本工業新聞主催の「サブテックス '89」「表面技術総合展」「PRO WOOD FAIR'90」に協賛参加。

1991 M&E 協議会発足

新組織による活発な工業会活動が始動し、日本塗料工業会との協議機関である M&E 協議会もこの年に発足した。

1992 塗装機器の JIS 規格化

CEMA 規格としての「エアレスガンの JIS 化」草案を策定した。

1993.6 第17回年次総会 名鉄犬山ホテル

1989年1月 新年互礼会
名古屋キャッスルホテル



岩田副会長、松尾会長、甘利副会長



1989年6月 第13回年次総会
熱海新かど旅館



1991年11月
第13回科学機器展「テクノ大阪 '91」に工業会として出展



1993年6月
日本塗装機械工業会第17回年次総会 名鉄犬山ホテル

国内（日本）

1985年：青函トンネル本坑貫通
1986年：男女雇用機会均等法施行
1986年：バブル経済の絶頂
1989年：昭和から平成へ改元
1989年：消費税導入
1991年：バブル崩壊と「失われた10年」の始まり

海外

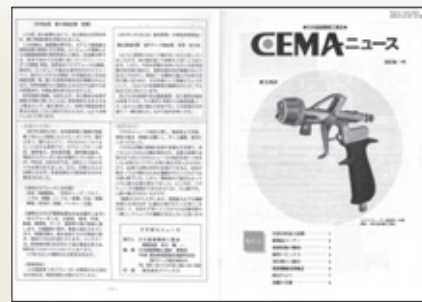
1986年：チェルノブイリ原発事故
1989年：ベルリンの壁崩壊
1990年：東西ドイツ統一、湾岸危機
1991年：ソ連崩壊
1993年：EU（欧州連合）発足
1994年：南アフリカでマンデラ政権誕生

1994.11 CEMA ニュース 改訂版1号発行

会員への情報発信の要となる「CEMA ニュース」第1号を発行した。新商品紹介、最新技術動向、海外トピックなどを掲載、業界ニュースを迅速かつ多角的に届ける冊子となった。

秋の叙勲において甘利会長が勲5等瑞宝章（現在の「瑞宝双光章」）を受賞。

塗装機分野における長年の発明・考案を通じた多大な功労が評価されたことが記事になった。



CEMA ニュース 改訂版1号の表紙

1995 悪臭防止・公害防止の冊子発刊

「悪臭防止ハンドブック」の編集発刊。

CEMA 製機委員会及び(社)日本塗料工業会共同編集。

「公害防止ガイドブック」の編集発刊。

CEMA 技術部会環境分科会編



1995年上海にて開催された「日本塗料・塗工業業展覧会」にCEMAが後援

1996.6 第20回記念年次総会

会員82名が出席した第20回総会にて、甘利会長は工業会の「成人式」を機に、あるべき姿を具現化するビジョン策定を宣言。会員の総意を結集した理念と目標を内外にアピールし、次代への指針とする方針を打ち出した。



パーティーの司会は女優 一谷伸江さん

1996.6 設立20周年記念パーティー開催

都ホテル東京にて「設立20周年記念パーティー」が開催された。夫人同伴の呼びかけに応えた10数組を含む、約80名の会員が参集。華を添えたのは、ムード歌謡の重鎮「和田弘とマヒナスターズ」。レコード大賞受賞曲『誰よりも君を愛す』や、吉永小百合さんとのデュエットで知られる『寒い朝』の甘く切ない旋律が会場を包み込みました。会員同士が家族を交えて絆を深めた、20周年にふさわしい心温まるひとときであった。



和田弘とマヒナスターズ

1997.4 第5回技術講演会

粉体塗装など環境配慮型技術への関心が高まる中、専門知識を共有。実務に即した議論が会場を熱くした。



1997年技術講演会

国内（日本）

1995年：阪神・淡路大震災
1995年：地下鉄サリン事件
1997年：山一証券など大型倒産、消費税5%増税

海外

1995年：Windows 95の世界的普及
1996年：世界初の体細胞クローン羊「ドリー」が誕生
1997年：香港返還

1998.4 ペイントショー出展

年次総会を目前に控え、業界全体が新技術の普及に邁進していた時期。当工業会は、最新の塗装システムを広く社会に提示し、メーカーとしての高い技術力と環境への配慮をアピール。この出展は会員各社の結束を象徴するとともに、21世紀の塗装業界をリードする CEMA の存在感を多方面に強く印象付ける貴重な機会となった。

**1998.6 第22回年次総会**

長野五輪の余韻が残る中、業界も新時代への対応を模索していた時期。国定公園の景勝地、名鉄犬山ホテルに集った会員一同は、21世紀を見据えた塗装機械業界の結束とさらなる飛躍を固く誓い合った。



名鉄犬山ホテル

1999.6 第23回年次総会

世紀末の転換期に開催された総会。会員が膝を突き合わせ、工業会の在り方を根本から見直す「CEMA 改革」を熱烈に議論した。この自由闊達な対話が、21世紀に向けた組織活性化の原動力となった。



CEMA 改革についてのフリーディスカッション

2001 ホームページ開設

情報の迅速化と省力化を支える基盤として、公式ホームページを開設。併せて業界知識を共有する「用語集」の掲載も開始した。

2003.6 第27回年次総会

新たな年度の指針を定めるべく開催された第27回年次総会。IT 化の進展や環境規制への対応が急務となる中、会員各社が一致団結して業界の課題に立ち向かう姿勢を確認。新時代の塗装機械業界を切り拓く、議論が交わされた。



新横浜国際ホテル

2003.11 合同部会

京都の老舗「きよみず」にて、組織の垣根を越えた対話の場が持たれた。歴史ある静謐な空間が、日頃の喧騒を忘れさせ、自由で創造的な議論を後押しした。忘れがたい親睦の集いとなった。



京都「きよみず」

国内（日本）

1998年：長野冬季五輪開催
1999年：iモードサービス開始（2026年で終了）
2001年：小泉内閣発足
2003年：地上デジタル TV 放送が東京、大阪、名古屋の3大都市圏で開始

海外

1999年：欧州単一通貨「ユーロ」導入
2001年：アメリカ同時多発テロ（9.11）
2001年：アフガニスタン戦争
2003年：イラク戦争開戦

2005.1 新年互礼会

互礼会の会場に響き渡るクラシックギターの清らかな音色。経済の転換期にあって、束の間の静寂と芸術が会員の心に潤いを与えた。



小林会長・里見副会長・吉田理事

2005.6 小池環境大臣から VOC 対策を依頼される

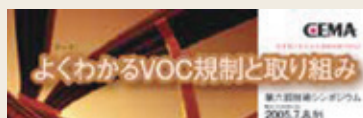
環境省を訪れた理事一同。小池百合子環境大臣（現・東京都知事）より直接、大気汚染防止法改正に伴う VOC 排出抑制への協力を要請される。業界の技術力が環境政策の鍵を握ることを強く実感し、社会的責任の重さを再認識した歴史的一步となった。大臣からの要請を受け、即座に具体的な解決策を提示するスピード感ある展開となった。法規制への不安を抱える業界関係者に対し、最新の技術を解説し、環境対応への指針を示した。



小池百合子環境大臣を囲んで

2005.7 パネル討議を交えた技術シンポジウム

「よくわかる VOC 規制と取り組み」というテーマに対し、平野氏が司会進行を務め、4名のパネリストによる熱のこもったディスカッションを展開。複雑な環境規制に対し、実務に即した具体的な対策や知見を共有する、有意義な研鑽の場となった。



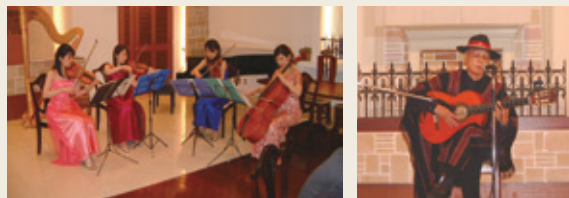
日本ペイント東京センタービル

2006.6 創立30周年記念懇親会

長きにわたり業界を牽引してきた先達への敬意と、未来を担う次世代への期待が交錯する場となった。会員相互の固い絆を再確認し、次なる40周年に向けた「共生と共栄」の決意を新たにした感動的なひとときとなった。



土田理事ご挨拶



創立30周年記念懇親会

国内（日本）

2005年：郵政民営化関連法案成立
2005年：愛知万博（愛・地球博）開催
2006年：第1次安倍内閣発足
2008年：iPhone 3G 発売（日本初上陸）

海外

2005年：YouTube のサービス開始
2007年：米 Apple が初代 iPhone を発表
2008年：北京オリンピック開催、ボルツが陸上短距離で世界新記録
2008年：リーマンショック

2008.6 第32回年次総会

小林会長は、原油高騰による材料値上げ等の逆境下こそ、付加価値の高いものづくりと技術サービスが重要であると強調。活動の三本柱として「技術の向上・普及」「安全・環境対応」「業界の地位向上」を掲げ、若手会員の育成を通じた組織活性化を誓った。総会では全議案が満場一致で承認され、関係団体との環境対策連携や HP での統計発信、シンポジウム開催など、対外的な情報発信力も大幅に強化された。



菅原副会長退任のため花束贈呈

2009.6 第33回年次総会

総会では2009年度計画を含む全議案が承認され、小林会長は景気回復の遅れに対し「他業種との積極的なコラボレーション」による新提案を掲げた。また、紺野事務局長の復帰宣言により執行体制が強化。懇親会では甘利副会長のユーモア溢れる挨拶で会場が沸き、来賓の日本工業塗装協同組合連合会山崎会長からも熱いエールが送られた。



甘利副会長による乾杯

2010.6 第34回年次総会

総会では小林会長が3期6年の任期を終え退任し、後任として里見氏が新会長に就任した。副会長には甘利、壺田、木下の3氏が選出され、専務理事には平野氏が再任、理事会社には関西ペイントと日本ペイントが新任。懇親会では、里見新会長の抱負に続き、小林前会長へ感謝の花束が贈られた。CEMA は次代を見据えた強固な新体制で再始動した。

日本工業塗装協同組合連合会
山崎会長と CEMA 里見会長

甘利副会長のご挨拶

**2012.4 塗装産業が「サポイン21」として
特定ものづくり基盤技術に指定**

中小企業を支援する「中小ものづくり高度化法」（2006年策定）において基盤技術への工業塗装分野の指定を目指し、2010年7月より塗料・塗装の関係団体、独立行政法人、行政機関等が連携して精力的に推進活動を行う。

結果、2012年4月の法改正において、工業塗装分野が第21番目の基盤技術として指定された。

サポインの啓発も活発に行われ、CEMA のみならず業界団体で「サポイン21」という名が浸透した。

**国内（日本）**

2009年：政権交代（民主党内閣発足）
2011年：東日本大震災（3.11）
2012年：アベノミクス開始
2012年：東京スカイツリー開業

海外

2009年：オバマ米大統領就任
2011年：「アラブの春」拡大
2012年：ヒッグス粒子の発見（欧州合同原子核研究機構 CERN）

2012.6 第36回年次総会

任期満了に伴う役員改選が行われ、新会長にランズバーグ・インダストリーの木下氏が就任。

副会長には甘利氏、壺田氏の両名が再任され、専務理事には引き続き平野氏が就いた。木下新会長のもと、経験豊富な再任役員が協力を固める強固な執行体制を確立。世界的な競争激化や環境変化に対応するため、組織の結束を深め、次なる成長に向けた活動方針が全会一致で採択された。

2013.6 第37回年次総会

2013年度の年次総会においては、前年度の事業報告が承認されたのを受け、新部会の拡充やシンポジウムの定例開催、さらには外部団体との連携強化を軸とする新年度計画が採択された。

特別講演では、日米の球界で活躍された田口壮氏を招聘。「何苦楚（なにくそ）の気持ち ～超ポジティブシンキング～」と題し、数々の困難を不屈の精神で糧に変えてきた氏の体験談は、聴講した会員諸氏に深い感銘を与えた。その後の懇親会では、当時の景気回復の兆しを捉え、木下会長が「セモノミクス」という機知に富んだ言葉で工業会の躍進を誓った。

2014.1 新年互礼会

新年互礼会は各界から著名な講師を招き、会員の知見を広げるとともに、業界の結束を固める場となった。

北京五輪男子400m メドレーリレーの銅メダリストである宮下純一氏を招いた講演では、トップアスリートとしての極限の挑戦とチームワークの重要性が語られた。また、スキー・ノルディック複合の元オリンピック選手である荻原次晴氏や、国際弁護士として活躍する湯浅卓氏など、多才な著名人を講師として迎えた。

2014.4 交流会

33社の新会員と親睦を図るため、日光にて春の交流会を開催した。

塗装の歴史を学びつつ、日光の歴史ある建造物と文化に触れ、東照宮、二荒山神社を巡り交流を深めた。



里見会長ご挨拶



木下会長
新会長としてご挨拶



木下会長と田口壮氏



北京五輪男子400m
メドレーリレーの
銀メダリスト
宮下純一氏の講演



元オリンピック選手
メドレーリレーの
荻原次晴氏



湯浅卓氏



第38回年次総会



日光東照宮



2016.6 第40回記念総会

第40回という節目を祝う総会に、小泉純一郎元首相が登壇。代名詞ともいえる『原発ゼロ』をテーマに、日本の進むべきエネルギー政策のあり方を情熱的に語られた。元一国の宰相が放つ圧倒的な存在感と、時折混じるユーモア、そして信念を貫く力強い言葉の数々。塗装業界の未来を担う会員たちにとって、変革への勇気と進取の精神を改めて心に刻む、刺激的で贅沢なひとときとなった。

小泉純一郎
元首相

小泉純一郎元首相を囲んで

2018.7 CEMA・日本塗料商業組合共同研究事業

メーカーと商社の垣根を越え、現場の課題解決に挑む共同研究。アネスト岩田の拠点を舞台に、最新機器を用いた実践的な検証やセミナーが行われた。流通と製造が知恵を出し合い、塗装業界の付加価値向上を目指した、熱意ある産学連携ならぬ『産産連携』の協同研究事業となった。



アネスト岩田 ショールーム

2018.7 合同委員会（勉強会）

テーマは「IoT・AIにつながる塗装の自動化最新動向」で、ABB、安川電機、オプトセンスの3社が最新の技術動向について講演を行った。本会は塗装の完全自動化に向けた課題認識を目的としており、業界をリードする企業の知見を得られる点が魅力的なものであった。また、各部会後の懇親会も開催され、技術習得と会員間のネットワーク構築を同時に促進する、実益の高い勉強会となった。



アネスト岩田 グローバルワンホール

2019.6 第43回年次総会

従来の三部会体制から、現在の五委員会制への抜本的な組織再編が決議された。



第43回年次総会 新横浜国際ホテル

2019.7 合同委員会（勉強会）

今は無きホテルメルパルク横浜で開催された勉強会。技術委員会の企画により「IoT 活用に関する技術動向」をテーマに掲げ、三菱電機による e-F@ctory を用いた工程最適化と、久保井塗装工業所による IoT での塗装工程管理についての講演が行われた。勉強会後は展望レストランへと場所を移し、横浜の夜景を背に和やかな懇親会が催され、会員同士の知見を深める有意義な一日となった。



ホテルメルパルク横浜

国内（日本）

2016年：家庭用電力の小売全面自由化が開始
2019年：平成から令和へ改元（天皇退位）
2019年：消費税10%
2019年：ラグビーW 杯日本開催

海外

2016年：イギリスの EU 離脱決定（Brexit）
2016年：トランプ米大統領当選

2020.1 新年互礼会

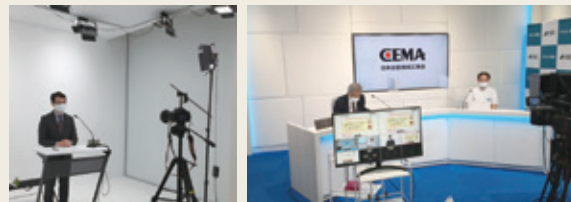
コロナのパンデミックで世界が一変する直前、誰もが晴れやかな表情で集った最後の新年互礼会。会場には笑顔が溢れ、輝かしい2020年代の幕開けを疑いもなく祝福しました。この直後に訪れる試練の前に、会員同士が直接肩を並べ、英気を養った極めて貴重な交流の記録です。



名鉄ニューグランドホテル

2021.10 技術シンポジウム生放送

従来、東京と大阪でリアル開催していた技術シンポジウムは、コロナ禍のため、WEB方式を採用。慣れない運営に技術委員会のスタッフ一同が尽力して開催したこのWEB方式は、利便性の高さから好評でコロナ明け後も継続し、2026年現在に至るまで、場所を問わず参加可能な有意義な情報共有の場として定着している。



アネスト岩田のAAAスタジオ

2021.12 コーティングジャパン東京

CEMA 単独ブースを出展し、相談コーナーには多くの来場者が訪れ、塗装技術や設備に関する多岐にわたる相談に対応。コロナ禍にも関わらず、対面での貴重な交流の場となった。



コーティングジャパン東京（幕張メッセ）
CEMA ブース

2022.6 第46回年次総会

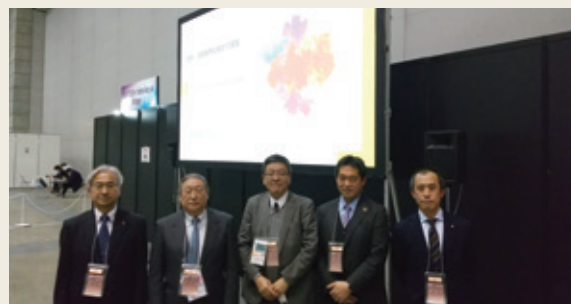
活動方針は「SDGs 2030」に対応する目標立案を軸に据え、「CEMA 21世紀3ビジョン」を基準とした活動を推進することとした。重点項目としてカーボンニュートラルへの対応や塗装ラインの自動化、他団体との協業による業界の高度化を掲げていた。コロナ禍の影響を考慮し、リアルとWEBを併用するハイブリッド方式にて開催した。



ニューオーサカホテル

2022.7 コーティング・コンソーシアム（CoCo）設立

塗料・塗装の関係団体がサステナブル社会に向けた先進的な取り組みをしていくことを理念に設立。業界団体の垣根を超えた共同プロジェクトで環境負荷低減やCO₂排出削減に取り組む。



コーティングジャパン東京にて CoCo の活動を解説
幕張メッセ

国内（日本）

2021年：東京2020五輪・パラリンピック開催
2022年：改正道路交通法施行により「自動運転レベル4」の公道走行が解禁

海外

2020年：新型コロナウイルス世界的大流行
2020年：イギリスが欧州連合（EU）から正式に離脱
2021年：バイデン米政権発足
2021年：気候変動枠組条約締約国会議（COP26）で石炭火力の段階的削減に合意
2022年：ロシアのウクライナ侵襲開始

2023.6 第47回年次総会

大阪の地に集い、SDGsを見据えた新機軸の活動方針が審議され、カーボンニュートラルや自動化への挑戦を共有。対面ならではの総会となった。



ニューオーサカホテル

2023.11 交流会

画面越しではなく、ついに実現した完全対面での開催。長瀬産業様の講演を真剣に聴講し、各委員会の枠を超えて情報交換を行った。横浜の地で再確認した対面の喜びが、次なる技術革新への活力を生み出した。



メルパルク横浜

2023.11 米倉山ゆめソーラー館見学会

東京電力エナジーパートナー主催の米倉山ゆめソーラー館見学会に参加し、最先端の脱炭素技術を深く学ぶ。特に1.5MWのP2G実証設備や水素充填設備を間近にし、再生可能エネルギーを水素として貯蔵・活用する技術の具体性に感銘を受けた。研修設備やメガソーラーも拝見し、次世代エネルギー社会の実現に向けた着実な歩みを実感でき、非常に有意義な研修であった。



米倉山ゆめソーラー館（山梨県甲府市）

2024.1 新年互礼会

コロナ禍の制約を脱し、かつての活気が戻った2024年の幕開け。新年の挨拶を交わす会員たちの声が会場に響き、対面でのコミュニケーションの価値を改めて噛み締めた。



新横浜グレイスホテル

2024.11 秋季合同委員会

講演会では、日本ペイント・サーフケミカルズ株式会社の中尾健司氏が登壇し、「環境配慮型表面処理剤のご紹介」をしていただいた。本講演では、日本ペイントグループの中核企業として、顧客のSDGs（持続可能な開発目標）やカーボンニュートラルへの取り組みを支援する表面処理剤が提案された。昨今の環境意識の高まりに応える技術的な知見が共有される貴重な機会となった。



新横浜グレイスホテルでのご講演

国内（日本）

2023年：将棋の藤井聡太氏が史上初の八冠独占を達成
 2024年：能登半島地震（1.1）
 2024年：20年ぶりの新紙幣（渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎）の発行開始
 2024年：物流2024年問題への対応本格化と自動運転技術の公道実証拡大

海外

2023年：生成AI（ChatGPT等）の爆発的普及
 2023年：インドの人口が中国を抜き世界最多に（国連推計）
 2024年：パリオリンピック・パラリンピック開催

2025.1 新年互礼会

佐伯会長は年頭の挨拶に登壇し、先行き不透明な「VUCAの時代」において変化を恐れず対応する重要性を説いた。業界の持続的な発展に向け、結束を強める出発点となった。



佐伯会長ご挨拶

2025.5 理事会

第180回理事会では、佐伯会長の後任に服部氏（旭サナック）が承認されたほか、平野元専務理事を偲ぶ会や創立50周年事業、ホームページ刷新などが議論された。



塗料報知新聞社



2025.5 平野克己専務理事を偲ぶ会

CEMA主催の「平野克己様を偲ぶ会」が横浜市の崎陽軒本店にて、執り行われた。会場にはCEMAの往年のメンバーと現役が共に集い、長年にわたり業界の発展に尽力された平野氏の功績を称えた。会の終盤には、坂井 IPCO 理事長が参列者を代表してお別れの挨拶を述べ、全員で故人の冥福を祈りながら、温かな雰囲気の中で最後を締めくくった。



故人を偲び、感謝の意を捧げる

2025.6 第49回年次総会 (ニューオーサカホテル)

第49回年次総会では、役員人事が承認され、旭サナックの服部修一氏が新会長に就任した。会合では2024年度の活動・収支報告に加え、コスト増に伴う2026年度からの会費改正も審議。さらに環境宣言の改定や、設立50周年に向けた50周年記念誌作成計画も共有され、次年度への活発な方針が示された。



服部会長ご挨拶

2025.6 総会後の懇親会

懇親会では、中締めの際に新任の服部会長、佐伯副会長、そして日本工業塗装協同組合連合会の原谷副会長の3名が壇上に揃い踏み。関西流の威勢の良い締めが披露されると、会場のボルテージは最高潮に達し、新体制の門出を祝う活気ある一幕となった。

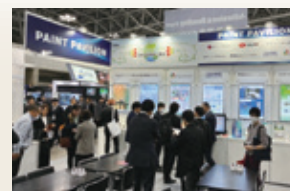
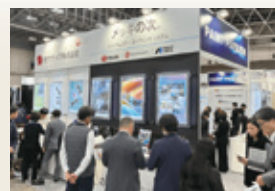


ニューオーサカホテル

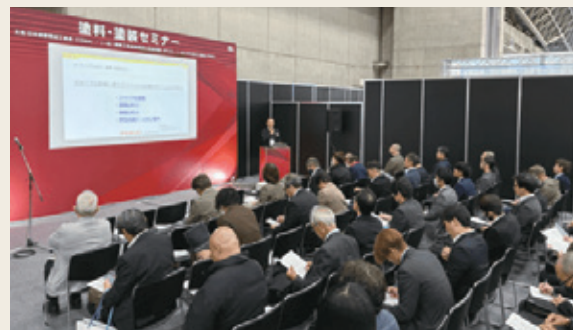
2025.11 コーティングジャパン東京

「コーティングジャパン東京」は、計47,355人もの来場者を記録し、熱気に包まれた。今回のCEMAブースでは、会員7社へ有償展示スペースを提供。各社の塗装技術を披露した。

さらに、日本塗料工業会、国際工業塗装高度化推進会議（IPCO）、日本工業塗装協同組合連合会、コーティング・コンソーシアム（CoCo）、塗料報知新聞社共同による「PAINT PAVILION」を出展。塗装業界の総合力を結集したこの巨大パビリオンは、展示会の象徴的な存在となった。連日開催されたセミナーでは、最新技術を求める聴講者で立ち見が出るほどの盛況ぶりを見せ、次世代へと繋がる活発な技術交流が展開された。



コーティングジャパン東京（幕張メッセ）



展示場内のセミナー会場

2026.1 新年互礼会

60名を超える会員・来賓が集結した、新年互礼会。新時代の塗装業界を担うリーダーたちが一堂に会し新春の慶びを分かち合い、業界の更なる発展と結束を誓い合った。



新横浜グレイスホテル

2026.2 第1回塗装技術者向け勉強会

初の試みとなった勉強会。1泊2日で塗装工程の全てを網羅する集中講習を実施した。技術習得に励む若手たちの熱気に包まれ、夜の懇親会では社を越えた絆も誕生。技術の研鑽と交流の両面で、記念すべき第一歩になった。



服部会長
ご挨拶



受講の様子

2026.6 50周年記念総会

（名古屋マリオットアソシアホテル）

CEMA50周年を祝い、総会・懇親会を開催する。



パーカーエンジニアリング株式会社
技術開発センター

国内（日本）

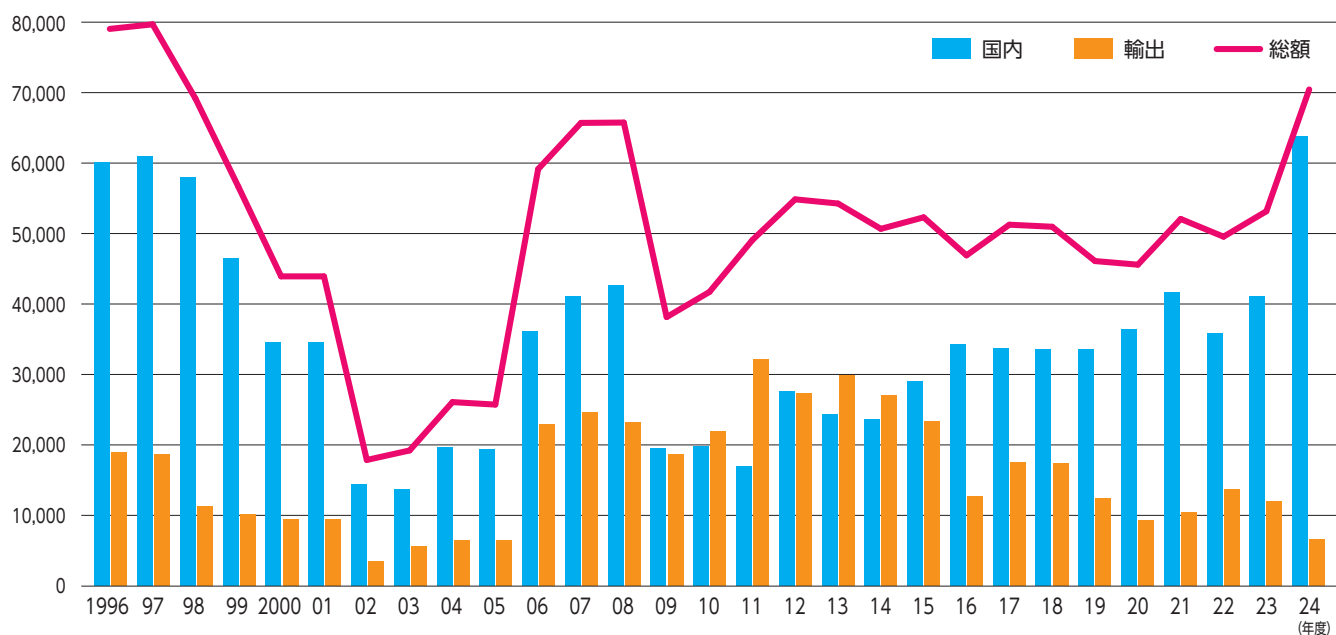
2026年：国内でのAI社会実装の進化
2026年：カーボンニュートラル社会に向けた産業構造の転換加速

海外

2026年：アルテミス計画（月面探査プロジェクトで有人月周回飛行）
2026年：グローバルな脱炭素（カーボンニュートラル）への投資拡大

出荷統計

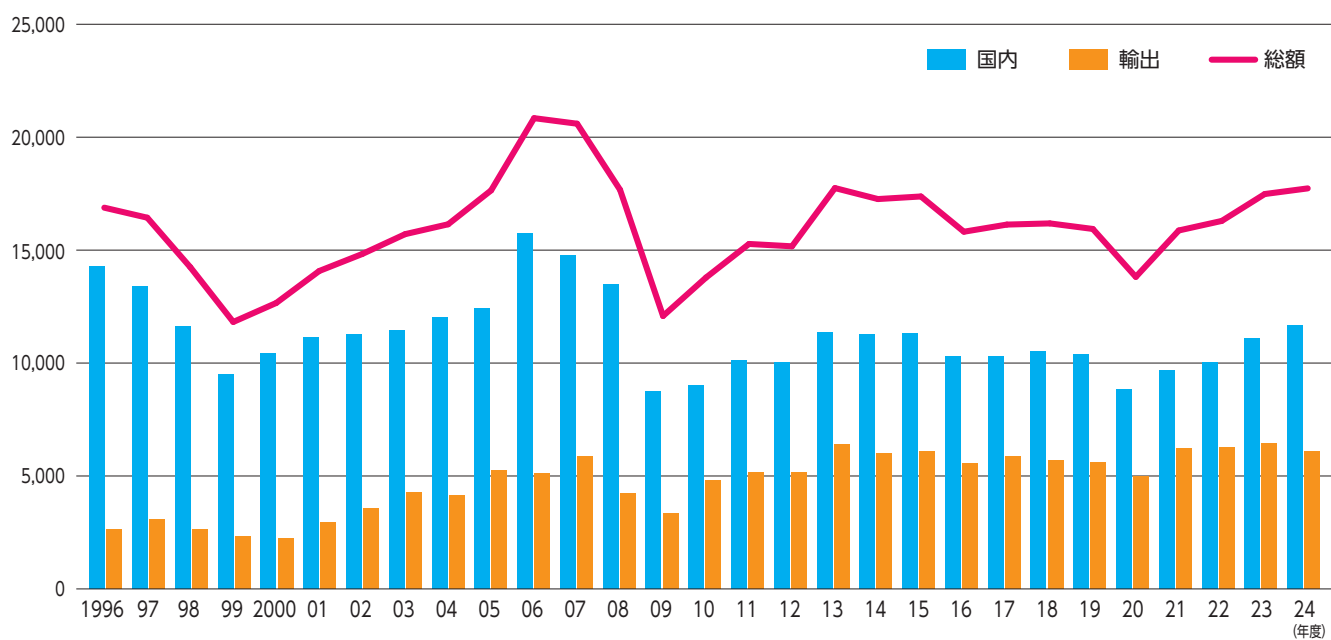
塗装設備出荷金額 (単位：百万円)



〔参考〕投票社数

1996	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
25.0	25.0	24.0	23.0	23.0	17.0	17.0	8.0	10.0	11.0	12.5	14.5	14.0	12.5	11.0
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
11.5	12.0	12.0	12.5	13.0	12.5	10.0	9.5	10.0	11.0	11.0	10.0	9.5	7.5	

塗装機器出荷金額 (単位：百万円)

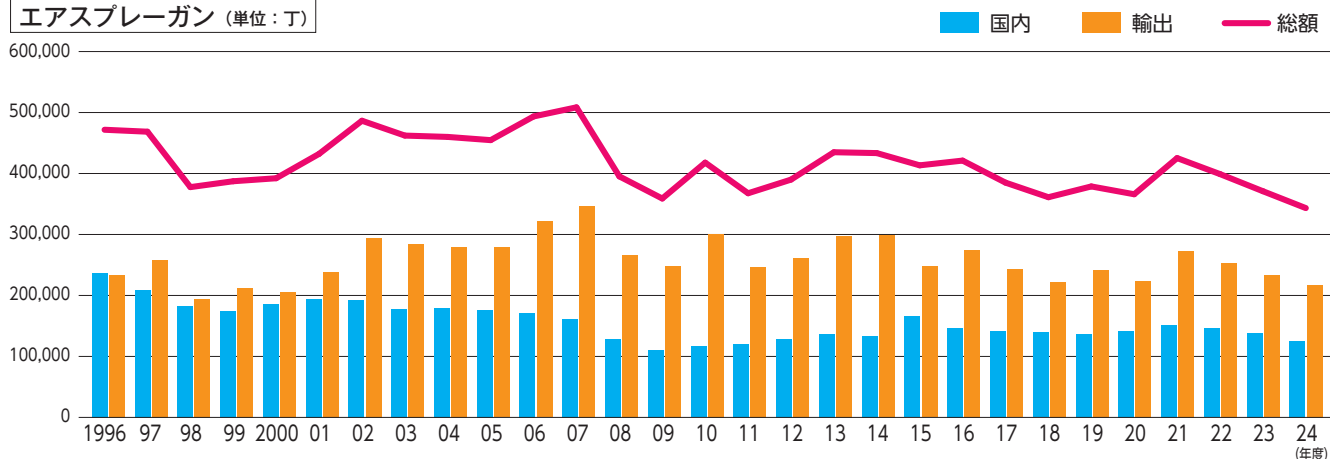


〔参考〕投票社数

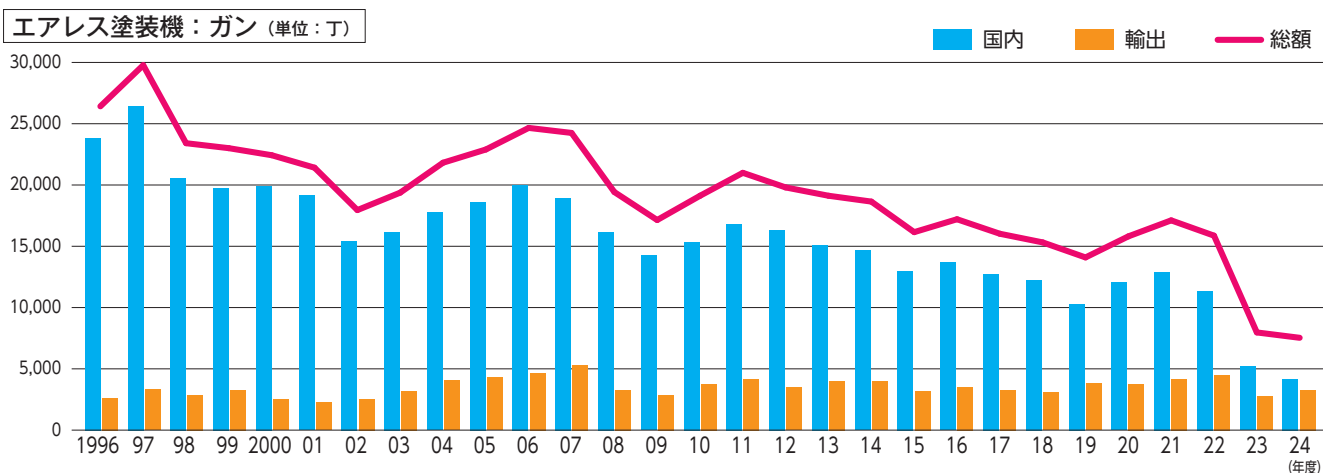
1996	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	10.0	9.0	9.0	9.0	10.0	10.0	10.0	10.0	9.0
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
9.0	9.0	9.0	9.0	8.5	8.0	8.3	8.0	7.5	8.0	8.0	8.0	7.0	7.0	

塗装機器出荷台数

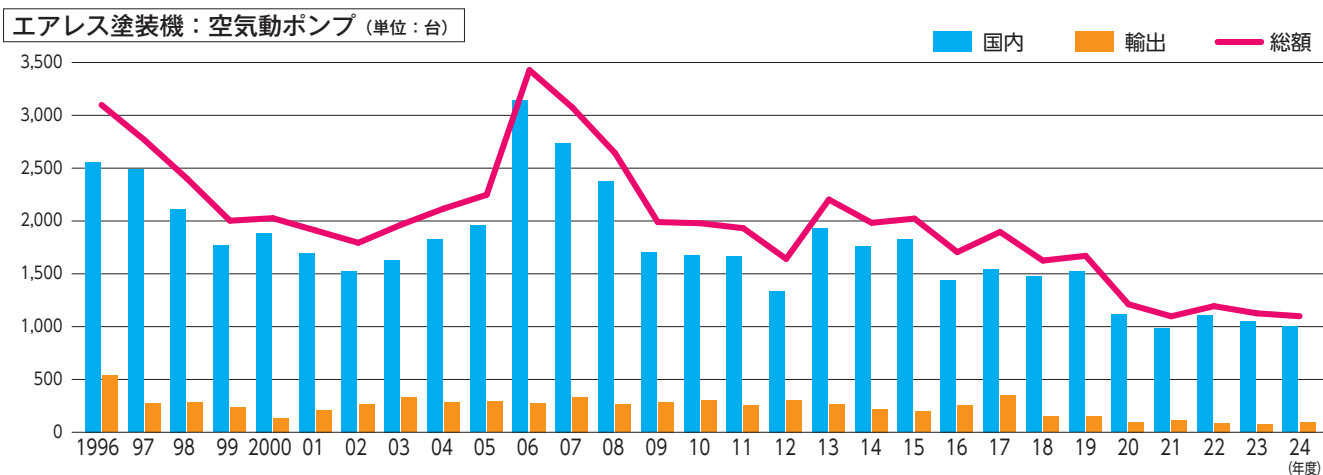
エアスプレーガン (単位: 丁)



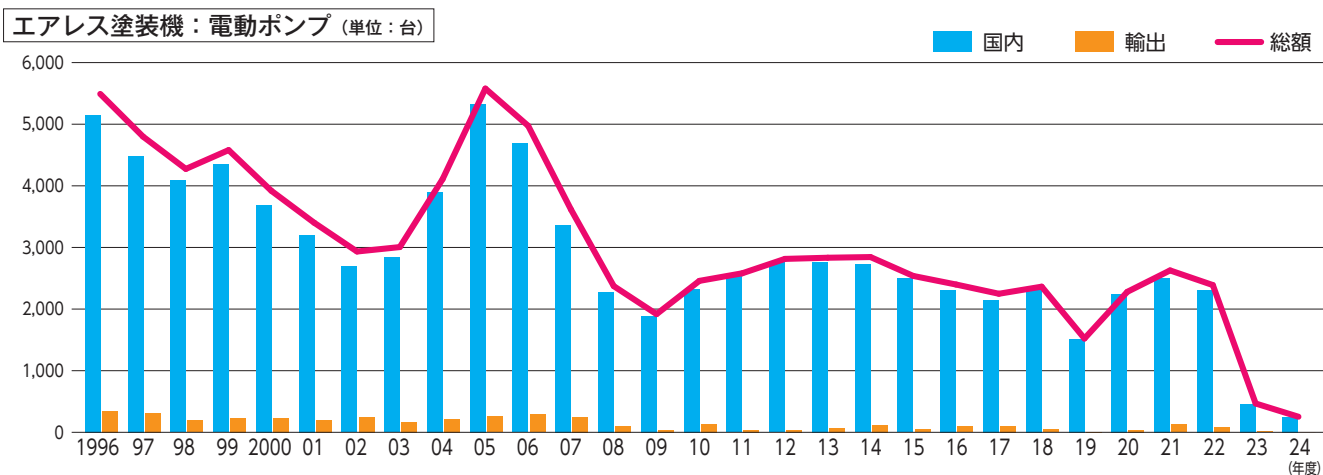
エアレス塗装機: ガン (単位: 丁)



エアレス塗装機: 空気動ポンプ (単位: 台)

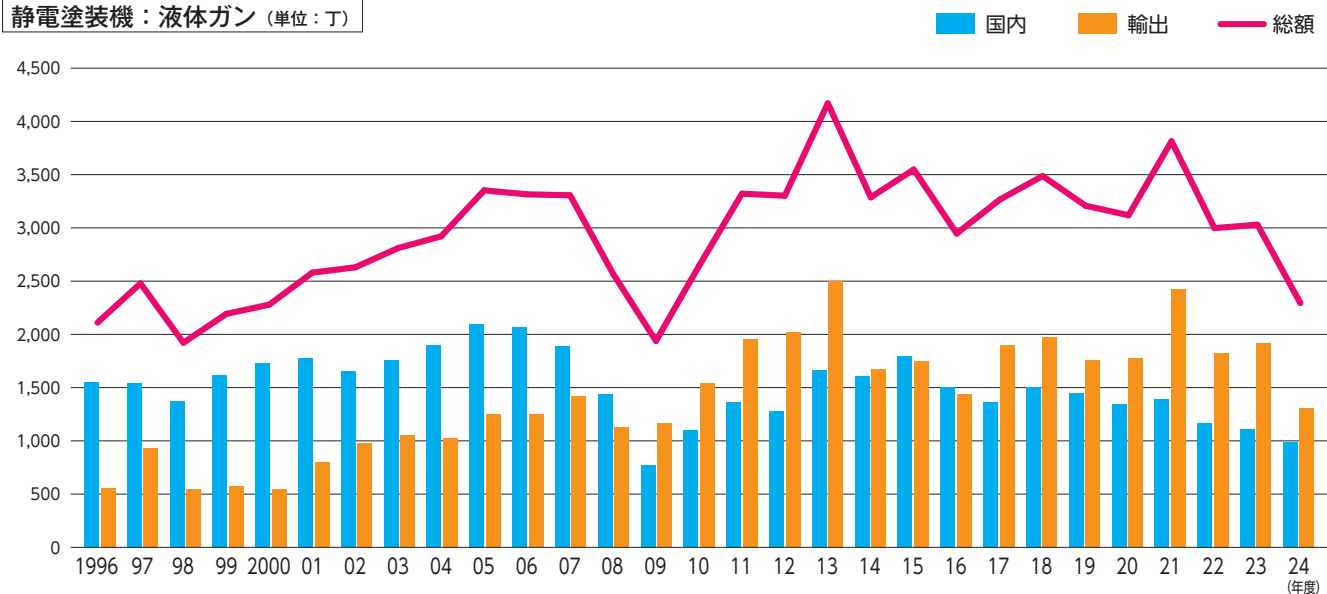


エアレス塗装機: 電動ポンプ (単位: 台)

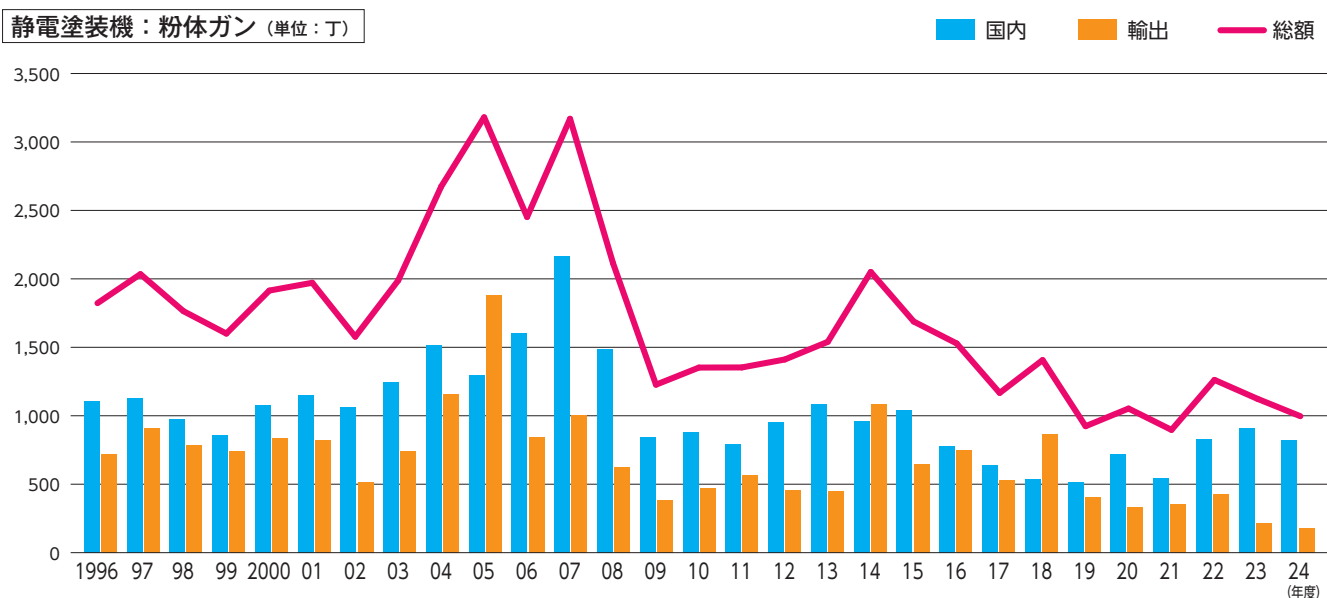




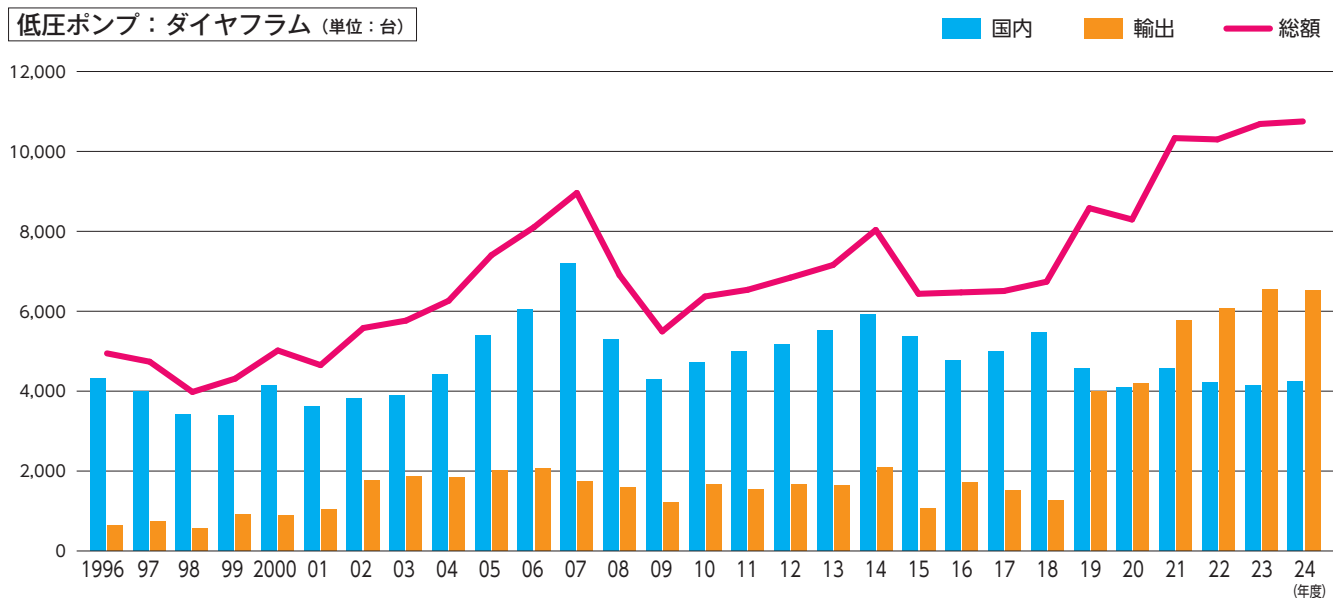
静電塗装機：液体ガン（単位：丁）



静電塗装機：粉体ガン（単位：丁）



低圧ポンプ：ダイヤフラム（単位：台）



編集後記

CEMA創立50周年の節目を飾る本誌の発刊に際し、その構成を検討するにあたっては、20年、30年、40年と10年ごとに積み重ねられてきた歴代記念誌の伝統を継承することといたしました。本誌では、創立から現在に至るまでの50年間の歩みを記録するとともに、次なる半世紀を見据えた未来への展望をまとめた一冊としています。

論語には「五十にして天命を知る」という「知命」の言葉があります。40にして迷わず（不惑）突き進んできた我々が、50年という歳月を経て、改めて業界における自らの使命を再認識し、社会へ貢献していく決意を表しています。産業構造や経済情勢が激しく変化する現代において、CEMAが柔軟に、かつ確固たる指針を持って歩み続けるための「未来の原点」として、本誌が皆様の礎となれば幸いです。

本誌の制作にあたっては、短期間に数回の編集委員会を重ね、限られた時間の中で精力的に取り組んでまいりました。多大なるご協力をいただいた編集委員の皆様に、心より感謝申し上げます。



2026.4.10 編集委員会
塗料報知新聞社にて

50周年記念誌編集委員長 松丸 浩司



編集委員

株式会社IEC

吉川 永一郎

アネスト岩田株式会社

黒坂 臣吾

旭サナック株式会社

小寺 克幸

パーカーエンジニアリング株式会社

山西 和弘

山崎 諭志

株式会社明治機械製作所

木村 武司

島田 哲也

CEMA専務理事

樋川 浩一

加藤 啓太

CEMA事務局

有馬 利明

表紙写真：「スペイン・バルセロナ サグラダ・ファミリア 内部 ステンドグラス」

表紙に採用したのは、スペイン・バルセロナに建つサグラダ・ファミリアの内部、色彩豊かなステンドグラスから差し込む光の情景です。

天窓とステンドグラスを通して室内に満ちる光は、過去から現在、そして未来へと続く時間の流れを象徴し、本工業会のこれまでの歩みと、これから切り拓く明るい未来を想起させます。

この大聖堂は、建築家アントニ・ガウディの構想のもとに始まり、没後もお多くの建築家・技術者・職人の手によって受け継がれています。自然界の構造を模倣したフニクラ曲線や、光を最大限に取り込む設計思想は、世代を超えて継承され、現代の建築へと進化しています。

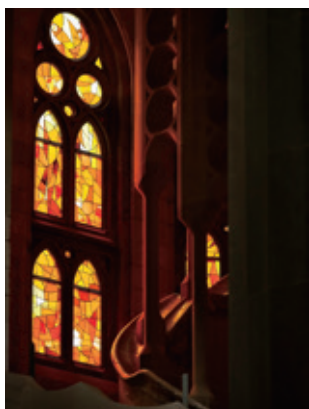
また、日本人彫刻家である外尾悦郎氏が主任彫刻家を務めるなど、国境を

越えて技術と精神が受け継がれている点も、多様な力を結集し発展してきた本工業会の姿と重なります。

かつては300年を要すると言われた壮大な建設も、3D設計（BIM）などの最先端技術の導入により大きく進展し、伝統と革新が融合しながら次の時代へと歩みを進めています。

2026年はガウディ没後100年、そして2030年代の完成を目指し、現在も塔やファサードは進化を続けています。その姿はまさに、「継承」「未来」「進化」を体現する存在です。

50周年という節目にあたり、これまで築いてきた歴史を礎に、新たな未来へと光を放ち続ける決意を込め、本写真を表紙に選定いたしました。



CEMA
日本塗装機械工業会

<https://www.cema-net.com/>

事務局：〒162-0805 東京都新宿区矢来町3番地 塗料報知新聞社内
TEL：03-5579-2511


CEMA Anniversary